

注3

大学番号：278

[平成30年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

注1

届出

吉備国際大学 農学部 醸造学科

注2

## 【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人順正学園  
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名 ソウゴウキカクブ サンジ オオウチ トモヒロ  
総合企画部 参事 大内 知洋

電話番号 086-231-3613

（夜間） 086-231-3613

F A X 086-231-3615

e-mail kikaku@kiui.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

( ) 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学の設置の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。



# 目次

## 農学部

＜醸造学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	16
6. 附帯事項等に対する履行状況等	29
7. その他全般的事項	36



# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人順正学園

## (2) 大学名

吉備国際大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒656-0484

兵庫県南あわじ市志知佐礼尾370-1

〒716-8508

岡山県高梁市伊賀町8番地

(注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(カケ ミヤコ) 加計 美也子 (平成13年1月)		
学長	(マヤマ シゲユキ) 眞山 滋志 (平成27年4月)		
学部長	(タニサカ タカトシ) 谷坂 隆俊 (平成27年4月)		
学科長等	(カナザワ カズキ) 金沢 和樹 (平成30年4月)	(フクダ シゲハル) 福田 恵温 (平成31年4月)	体調不良による退職に伴う変更(元)

(注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。

・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
農学部 醸造学科 学士（醸造学）	農学関係 家政関係	4年	40人	— 年次人	160人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	40 ( - ) [ - ]	( ) [ ]	40 ( - ) [ - ]	( ) [ ]	40 ( - ) [ - ]	( ) [ ]	0.55倍	—	
志願者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	40 ( - ) [ ]	( ) [ ]	59 ( - ) [ ]	( ) [ ]	56 ( - ) [ ]	( ) [ ]			
受験者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	39 ( - ) [ ]	( ) [ ]	58 ( - ) [ ]	( ) [ ]	54 ( - ) [ ]	( ) [ ]			
合格者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	38 ( - ) [ ]	( ) [ ]	54 ( - ) [ ]	( ) [ ]	51 ( - ) [ ]	( ) [ ]			
B 入学者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	20 ( - ) [ ]	( ) [ ]	24 ( - ) [ ]	( ) [ ]	23 ( - ) [ ]	( ) [ ]			
入学定員超過率 B/A					0.5		0.6		0.57				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ ( ) 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、( ( ) )書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和2年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次					20 [ 1 ] ( - )	- [ - ] ( - )	24 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	23 [ 1 ] ( - )	- [ - ] ( - )	平成31年4月1日付で地域創成農学科より1名2年次に転学科
2年次							21 [ 1 ] ( - )	- [ - ] ( - )	24 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	
3年次									20 [ 1 ] ( - )	- [ - ] ( - )	
4年次											
計					20 [ 1 ] ( - )		45 [ 1 ] ( - )		67 [ 2 ] ( - )		

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	人	人	平成28年度	人	人	
平成29年度	人	人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
平成30年度	20人	0人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	0人	0人	
令和元年度	45人	0人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
令和2年度	67人	1人	平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	1人	0人	経済的困難(1人)
			令和元年度	0人	0人	
			令和2年度	0人	0人	
合計		1人		1人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{20} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{45} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{67} = \boxed{1.49} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。



## 2 授業科目の概要

<農学部 醸造学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合A群	吉備国際大から世界へ 地域学概論 地域貢献ボランティア	1前	2			1							
		1後	2			1							
		2通	2									1	
	キャリア開発	キャリア開発 I	1後	2									1
		キャリア開発 II	2前	2									1
	情報処理	情報処理 I	1前	2			1						
		情報処理 II	1後	2			1						
	外国語	英語 I	1前	2									1
		英語 II	1後	2									1
		英語 III	2前	2									1
		英語 IV	2後	2									1
		中国語 I	1前	2									1
		中国語 II	1後	2									1
		中国語 III	2前	2									1
		中国語 IV	2後	2									1
	日本語教育科目 (留学生専用科目)	日本語 I A	1前	2									2
		日本語 I B	1後	2									2
		日本語 II A	2前	2									2
		日本語 II B	2後	2									2
		応用日本語 I A	1前	2									2
応用日本語 I B		1後	2									2	
応用日本語 II A		2前	2									2	
応用日本語 II B		2後	2									2	
日本語研究 I A		1前	2									2	
日本語研究 I B		1後	2									2	
日本語研究 II A		2前	2									2	
日本語研究 II B		2後	2									2	
総合B群	人間性の涵養	文章表現入門	1後	2									1
		文学への招待	1後	2									1
		美術の見方	1後	2									1
		音楽の楽しみ	2後	2									1
		生涯スポーツ論	1前	2									1
		生涯スポーツ実習	1後	1									1
	世界認識・自己理解	哲学	1前	2									1
		宗教学	1後	2									1
		倫理学	2前	2									1
		心理学	1後	2									1
		多文化理解	1後	2			1						1
	社会と制度	日本国憲法	1後	2									1
		民法	1前	2									1
		経済学	1前	2									1
社会学		2前	2									1	
人権と政治 社会と統計		2前 1後	2 2									1 1	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合A群	吉備国際大から世界へ 地域学概論 地域貢献ボランティア	1前	2			1							
		1後	2			1							
		2通	2									1	
	キャリア開発	キャリア開発 I	1前	2									1
		キャリア開発 II	3前	2									1
	情報処理	情報処理 I	1前	2			1						
		情報処理 II	1後	2			1						
	外国語	英語 I	1前	2									1
		英語 II	1後	2									1
		英語 III	2前	2									1
		英語 IV	2後	2									1
		中国語 I	1前	2									1
		中国語 II	1後	2									1
		中国語 III	2前	2									1
		中国語 IV	2後	2									1
	日本語教育科目 (留学生専用科目)	日本語 I A	1前	2									1
		日本語 I B	1後	2									1
		日本語 II A	2前	2									1
		日本語 II B	2後	2									1
		応用日本語 I A	1前	2									1
応用日本語 I B		1後	2									1	
応用日本語 II A		2前	2									1	
応用日本語 II B		2後	2									1	
日本語研究 I A		1前	2									1	
日本語研究 I B		1後	2									1	
日本語研究 II A		2前	2									1	
日本語研究 II B		2後	2									1	
総合B群	人間性の涵養	文章表現入門	1後	2									1
		文学への招待	1後	2									1
		美術の見方	1後	2									1
		音楽の楽しみ	2後	2									1
		生涯スポーツ論	1前	2									1
		生涯スポーツ実習	1後	1									1
	世界認識・自己理解	哲学	1前	2									1
		宗教学	1後	2									1
		倫理学	2前	2									1
		心理学	1後	2									1
		多文化理解	1後	2			1						1
	社会と制度	日本国憲法	1後	2									1
		民法	1前	2									1
		経済学	1前	2									1
社会学		2前	2									1	
人権と政治 社会と統計		2前 1後	2 2									1 1	

科目区分	授業科目の名称	記 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
一般教養科目	自然と数理	環境科学	1前	2								1
		物理学	1後	2		1						
		生物学	1前	2								1
		化学	1後	2								1
		人類生態学	3前	2								1
		統計学	2後	2								1
数学	2後	2								1		
総合C群	地域連携講座	南あわじ農業学	1前	2								1
		日本の伝統実技Ⅰ(文)	3後	1								2
		日本の伝統実技Ⅱ(武)	3前	1								1
小計(54科目)			-	6	99		1					26
専門基礎科目	専門基礎科目	醸造学概論	1前	2		4	1		1			
		基礎演習Ⅰ	1前	1		4	1		1			
		基礎演習Ⅱ	1後	1		4	1		1			
		基礎演習Ⅲ	2前	1		4	1		2			
		基礎演習Ⅳ	2後	1		4	1		2			
		遺伝学	1前	2								1
		分子生物学	2前	2								1
		ゲノム情報学	1後	2								1
		植物生理学	1前	2								1
		生物の進化と多様性	1前	2								1
		農業技術政策論	1前	2								1
		現代農業論	1後	2								1
		生物化学	2前	2								1
		有機化学	2後	2								1
		食の安全学	1前	2		2	1					3
		生物学実験	2後	1			1					1
		化学実験	2後	1			3	1		2		
小計(17科目)			-	9	19		5	1		2		9
専門教育科目	農業系科目	植物育種学概論	2前	2								1
		栽培学	1前	2								1
		野菜園芸学	2後	2								1
		花卉園芸学	2前	2								1
		植物病理学	2前	2								1
		総合防除管理学	3後	2			1					3
		植物細胞生理学	2後	2								1
		施設栽培・植物工場論	3前	2								1
		応用昆虫学	2後	2								1
		雑草学	3前	1								1
		農薬学	3後	2								2
		農業気象学	3後	2		1						
		家畜とその飼養管理	2前	2								4
		家畜の育種と繁殖	2後	2								4
		家畜の構造と病気	3前	2								4
		家畜とバイオテクノロジー	3後	2								1
		生物統計学	3前	2								1
フィールド実習Ⅰ	1前	1								3		
フィールド実習Ⅱ	1後	1								3		
小計(19科目)			-	4	31		1	1				24

科目区分	授業科目の名称	記 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
一般教養科目	自然と数理	環境科学	1前	2								1
		物理学	1後	2		1						
		生物学	1前	2								1
		化学	1後	2								1
		人類生態学	3前	2								1
		統計学	2後	2								1
数学	2後	2								1		
総合C群	地域連携講座	南あわじ農業学	1前	2								1
		日本の伝統実技Ⅰ(文)	3後	1								2
		日本の伝統実技Ⅱ(武)	3前	1								1
小計(54科目)			-	6	99		1					26
専門基礎科目	専門基礎科目	醸造学概論	1前	2		4	1		1			
		基礎演習Ⅰ	1前	1		4	1		1			
		基礎演習Ⅱ	1後	1		4	1		1			
		基礎演習Ⅲ	2前	1		4	1		2			
		基礎演習Ⅳ	2後	1		4	1		2			
		遺伝学	1前	2								1
		分子生物学	2前	2								1
		ゲノム情報学	1後	2								1
		植物生理学	1前	2								1
		生物の進化と多様性	1前	2								1
		農業技術政策論	1前	2								1
		現代農業論	1後	2								1
		生物化学	2前	2								1
		有機化学	2後	2								1
		食の安全学	1前	2		2	1					3
		生物学実験	2後	1			1					2
		化学実験	2後	1			3	1		2		
小計(17科目)			-	9	19		5	1		2		10
専門教育科目	農業系科目	植物育種学概論	2前	2								1
		栽培学	1前	2								1
		野菜園芸学	2後	2								1
		花卉園芸学	2前	2								1
		植物病理学	2前	2								1
		総合防除管理学	3後	2				1				3
		植物細胞生理学	2後	2								1
		施設栽培・植物工場論	3前	2								1
		応用昆虫学	2後	2								1
		雑草学	3前	1								1
		農薬学	3後	2								2
		農業気象学	3後	2		1						
		家畜とその飼養管理	2前	2								4
		家畜の育種と繁殖	2後	2								4
		家畜の構造と病気	3前	2								4
		家畜とバイオテクノロジー	3後	2								1
		生物統計学	3前	2								1
フィールド実習Ⅰ	1前	1						1		6		
フィールド実習Ⅱ	1後	1						1		6		
小計(19科目)			-	4	31		1	1				24

科目区分	授業科目の名称	記 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門教育科目	醸造分析化学	3後	2			2						
	醸造酵素化学	3前		2		1						
	醸造機能食品学	2前		2					1			
	醸造管理学	3前	2			1						
	微生物学	2前		2			1					
	醗酵微生物学	3後		2							1	
	醸造微生物学	2前		2		1						
	微生物毒性学	3前		2			1					
	環境汚染物質分析学	3後		2								1
	日本酒学	3後		2		1						
	ワイン学	3後		2								1
	乳酸菌醸造学	3前		2					1			
	醸造学実習	3前	1			3	1		2			
	栄養化学	2後		2		1						
	食品機能分析化学	3前		2		1						
	機能性食品学	3後		2								1
	食品化学	2前		2								1
	食品生化学	3前		2								1
	醸造食品素材学	2前		2								1
	酵素工学	3後		2					1			
	食品遺伝子工学	3前		2								1
	食品加工化学	2後		2		1			1			
	食品保蔵学	3後		2								1
	食品管理化学	3前		2		1						
	食品衛生学	2後		2								1
	農産物加工学	2前		2								1
	食肉加工学	3前		2								1
	乳製品加工学	2後		2								1
	水産物加工学	2後		2		1						
	味と食感の科学	3前		2		1						
小計 (30科目)	-	9	50		4	1		2			11	
専門応用科目	食品安全の経済学	4前		2								1
	食農マーケティング論	3前		2								1
	日本の食文化	3後		2								1
	日本の食文化実習	3後		1								1
	インターンシップ	3前		2								2
	食農コープ実習	4前		2								4
	醸造学演習Ⅰ	3前	2			5	1		2			
	醸造学演習Ⅱ	3後	2			5	1		2			
	醸造学演習Ⅲ	4前	2			5	1		2			
	醸造学演習Ⅳ	4後	2			5	1		2			
	卒業研究	4通	10			5	1		2			
小計 (11科目)	-	18	11		5	1		2			9	
合計 (131科目)	-	46	210		5	1		2			67	
卒業要件及び履修方法												
<p>教養科目（総合A群、B群、C群）については、総合A群から必修科目4単位を含み16単位以上、総合B群及びC群から必修科目2単位を含み8単位以上、計24単位以上を修得すること。また、この内、言語教育科目8単位以上（留学生は日本語科目8単位を含み16単位以上）を修得するものとする。専門教育科目については、必修科目34単位を含み計100単位以上を修得すること。また、教養科目と専門教育科目を合わせて合計124単位以上を修得すること。</p> <p>（履修科目の登録の上限：49単位（年間））</p>												

科目区分	授業科目の名称	記 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門教育科目	醸造分析化学	3後	2			2						
	醸造酵素化学	3前		2		1						
	醸造機能食品学	2前		2					1			
	醸造管理学	3前	2			1						
	微生物学	2前		2			1					
	醗酵微生物学	3後		2								1
	醸造微生物学	2前		2		1						
	微生物毒性学	3前		2			1					
	環境汚染物質分析学	3後		2								1
	日本酒学	3後		2		1						
	ワイン学	3後		2								1
	乳酸菌醸造学	3前		2							1	
	醸造学実習	3前	1			3	1		2			
	栄養化学	2後		2		1						
	食品機能分析化学	3前		2					2			
	機能性食品学	3後		2					1			
	食品化学	2前		2								1
	食品生化学	3前		2					1			
	醸造食品素材学	2前		2								1
	酵素工学	3後		2							1	
	食品遺伝子工学	3前		2								1
	食品加工化学	2後		2		1			1			
	食品保蔵学	3後		2								1
	食品管理化学	3前		2		1						
	食品衛生学	2後		2								1
	農産物加工学	2前		2								1
	食肉加工学	3前		2								1
	乳製品加工学	2後		2								1
	水産物加工学	2後		2		1						
	味と食感の科学	3前		2		1						
小計 (30科目)	-	9	50		4	1		2			12	
専門応用科目	食品安全の経済学	4前		2								1
	食農マーケティング論	3前		2								1
	日本の食文化	3後		2								1
	日本の食文化実習	3後		1								1
	インターンシップ	3前		2								2
	食農コープ実習	4前		2								4
	醸造学演習Ⅰ	3前	2			5	1		2			
	醸造学演習Ⅱ	3後	2			5	1		2			
	醸造学演習Ⅲ	4前	2			5	1		2			
	醸造学演習Ⅳ	4後	2			5	1		2			
	卒業研究	4通	10			5	1		2			
小計 (11科目)	-	18	11		5	1		2			9	
合計 (131科目)	-	46	210		5	1		2			68	
卒業要件及び履修方法												
<p>教養科目（総合A群、B群、C群）については、総合A群から必修科目4単位を含み16単位以上、総合B群及びC群から必修科目2単位を含み8単位以上、計24単位以上を修得すること。また、この内、言語教育科目8単位以上（留学生は日本語科目8単位を含み16単位以上）を修得するものとする。専門教育科目については、必修科目34単位を含み計100単位以上を修得すること。また、教養科目と専門教育科目を合わせて合計124単位以上を修得すること。</p> <p>（履修科目の登録の上限：49単位（年間））</p>												

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合A群	吉備国際大から世界へ 地域学概論 地域貢献ボランティア	1前	2			1						
		1後	2			1						
		2通	2									1
	キャリア開発	キャリア開発 I	1前	2								1
		キャリア開発 II	2前	2								1
	情報処理	情報処理 I	1前	2		1						
		情報処理 II	1後	2		1						
	外国語	英語 I	1前	2								1
		英語 II	1後	2								1
		英語 III	2前	2								1
		英語 IV	2後	2								1
		中国語 I	1前	2								1
		中国語 II	1後	2								1
		中国語 III	2前	2								1
		中国語 IV	2後	2								1
	言語教育科目 日本語(留学生専用科目)	日本語 I A	1前	2								2
		日本語 I B	1後	2								2
		日本語 II A	2前	2								2
		日本語 II B	2後	2								2
		応用日本語 I A	1前	2								2
応用日本語 I B		1後	2								2	
応用日本語 II A		2前	2								2	
応用日本語 II B		2後	2								2	
日本語研究 I A		1前	2								2	
日本語研究 I B		1後	2								2	
日本語研究 II A		2前	2								2	
日本語研究 II B		2後	2								2	
総合B群	人間性の涵養	文章表現入門	1後	2								1
		文学への招待	1後	2								1
		美術の見方	1後	2								1
		音楽の楽しみ	2後	2								1
		生涯スポーツ論	1前	2								1
		生涯スポーツ実習	1後	1								1
	一般教養科目 世界認識・自己理解	哲学	1前	2								1
		宗教学	1後	2								1
		倫理学	2前	2								1
		心理学	1後	2								1
		多文化理解	1後	2			1					1
	社会と制度	日本国憲法	1後	2								1
		民法	1前	2								1
		経済学	1前	2								1
		社会学	2前	2								1
人権と政治		2前	2								1	
社会と統計		1後	2								1	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合A群	吉備国際大から世界へ 地域学概論 地域貢献ボランティア	1前	2			1						
		1後	2			1						
		2通	2									1
	キャリア開発	キャリア開発 I	1前	2								1
		キャリア開発 II	3前	2								1
	情報処理	情報処理 I	1前	2		1						
		情報処理 II	1後	2		1						
	外国語	英語 I	1前	2								1
		英語 II	1後	2								1
		英語 III	2前	2								1
		英語 IV	2後	2								1
		中国語 I	1前	2								1
		中国語 II	1後	2								1
		中国語 III	2前	2								1
		中国語 IV	2後	2								1
	言語教育科目 日本語(留学生専用科目)	日本語 I A	1前	2								1
		日本語 I B	1後	2								1
		日本語 II A	2前	2								1
		日本語 II B	2後	2								1
		応用日本語 I A	1前	2								1
応用日本語 I B		1後	2								1	
応用日本語 II A		2前	2								1	
応用日本語 II B		2後	2								1	
日本語研究 I A		1前	2								1	
日本語研究 I B		1後	2								1	
日本語研究 II A		2前	2								1	
日本語研究 II B		2後	2								1	
総合B群	人間性の涵養	文章表現入門	1後	2								1
		文学への招待	1後	2								1
		美術の見方	1後	2								1
		音楽の楽しみ	2後	2								1
		生涯スポーツ論	1前	2								1
		生涯スポーツ実習	1後	1								1
	一般教養科目 世界認識・自己理解	哲学	1前	2								1
		宗教学	1後	2								1
		倫理学	2前	2								1
		心理学	1後	2								1
		多文化理解	1後	2			1					1
	社会と制度	日本国憲法	1後	2								1
		民法	1前	2								1
		経済学	1前	2								1
		社会学	2前	2								1
人権と政治		2前	2								1	
社会と統計		1後	2								1	

科目区分	授業科目の名称	記 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
一般教養科目	自然と数理	環境科学	1前	2								1
		物理学	1後	2		1						
		生物学	1前	2								1
		化学	1後	2								1
		人類生態学	3前	2								1
		統計学	2後	2								1
数学	2後	2								1		
総合C群	地域連携講座	南あわじ農業学	1前	2								1
		日本の伝統実技Ⅰ(文)	3後	1								2
		日本の伝統実技Ⅱ(武)	3前	1								1
小計(54科目)			-	6	99		1					26
専門基礎科目	専門基礎科目	醸造学概論	1前	2		4	1			1		
		基礎演習Ⅰ	1前	1		4	1			1		
		基礎演習Ⅱ	1後	1		4	1			1		
		基礎演習Ⅲ	2前	1		4	1			2		
		基礎演習Ⅳ	2後	1		4	1			2		
		遺伝学	1前	2								1
		分子生物学	2前	2								1
		ゲノム情報学	1後	2								1
		植物生理学	1前	2								1
		生物の進化と多様性	1前	2								1
		農業技術政策論	1前	2								1
		現代農業論	1後	2								1
		生物化学	2前	2								1
		有機化学	2後	2								1
		食の安全学	1前	2		2	1					3
		生物学実験	2後	1			1					1
		化学実験	2後	1			3	1			2	
小計(17科目)			-	9	19		5	1		2		9
専門教育科目	農業系科目	植物育種学概論	2前	2								1
		栽培学	1前	2								1
		野菜園芸学	2後	2								1
		花卉園芸学	2前	2								1
		植物病理学	2前	2								1
		総合防除管理学	3後	2			1					3
		植物細胞生理学	2後	2								1
		施設栽培・植物工場論	3前	2								1
		応用昆虫学	2後	2								1
		雑草学	3前	1								1
		農薬学	3後	2								2
		農業気象学	3後	2		1						
		家畜とその飼養管理	2前	2								4
		家畜の育種と繁殖	2後	2								4
		家畜の構造と病気	3前	2								4
		家畜とバイオテクノロジー	3後	2								1
		生物統計学	3前	2								1
フィールド実習Ⅰ	1前	1								3		
フィールド実習Ⅱ	1後	1								3		
小計(19科目)			-	4	31		1	1				24

科目区分	授業科目の名称	記 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
一般教養科目	自然と数理	環境科学	1前	2								1
		物理学	1後	2		1						
		生物学	1前	2								1
		化学	1後	2								1
		人類生態学	3前	2								1
		統計学	2後	2								1
数学	2後	2								1		
総合C群	地域連携講座	南あわじ農業学	1前	2								1
		日本の伝統実技Ⅰ(文)	3後	1								2
		日本の伝統実技Ⅱ(武)	3前	1								1
小計(54科目)			-	6	99		1					26
専門基礎科目	専門基礎科目	醸造学概論	1前	2		4	1			1		
		基礎演習Ⅰ	1前	1		4	1			1		
		基礎演習Ⅱ	1後	1		4	1			1		
		基礎演習Ⅲ	2前	1		4	1			2		
		基礎演習Ⅳ	2後	1		4	1			2		
		遺伝学	1前	2								1
		分子生物学	2前	2								1
		ゲノム情報学	1後	2								1
		植物生理学	1前	2								1
		生物の進化と多様性	1前	2								1
		農業技術政策論	1前	2								1
		現代農業論	1後	2								1
		生物化学	2前	2								1
		有機化学	2後	2								1
		食の安全学	1前	2		2	1					3
		生物学実験	2後	1			1					2
		化学実験	2後	1			3	1			2	
小計(17科目)			-	9	19		5	1		2		9
専門教育科目	農業系科目	植物育種学概論	2前	2								1
		栽培学	1前	2								1
		野菜園芸学	2後	2								1
		花卉園芸学	2前	2								1
		植物病理学	2前	2								1
		総合防除管理学	3後	2				1				3
		植物細胞生理学	2後	2								1
		施設栽培・植物工場論	3前	2								1
		応用昆虫学	2後	2								1
		雑草学	3前	1								1
		農薬学	3後	2								2
		農業気象学	3後	2		1						
		家畜とその飼養管理	2前	2								4
		家畜の育種と繁殖	2後	2								4
		家畜の構造と病気	3前	2								4
		家畜とバイオテクノロジー	3後	2								1
		生物統計学	3前	2								1
フィールド実習Ⅰ	1前	1								6		
フィールド実習Ⅱ	1後	1								6		
小計(19科目)			-	4	31		1	1				24

科目区分	授業科目の名称	記当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	醸造分析化学	3後	2			2						
	醸造酵素化学	3前		2		1						
	醸造機能食品学	2前		2					1			
	醸造管理学	3前	2			1						
	微生物学	2前					1					
	醗酵微生物学	3後		2							1	
	醸造微生物学	2前		2		1						
	微生物毒性学	3前		2			1					
	環境汚染物質分析学	3後		2							1	
	日本酒学	3後		2		1						
	ワイン学	3後		2							1	
	乳酸菌醸造学	3前		2					1			
	醸造学実習	3前	1			3	1		2			
	栄養化学	2後		2			1					
	食品機能分析化学	3前		2			1					
	機能性食品学	3後			2							1
	食品化学	2前			2							1
	食品生化学	3前			2							1
	醸造食品素材学	2前			2							1
	酵素工学	3後			2				1			
	食品遺伝子工学	3前			2							1
	食品加工化学	2後			2		1			1		
	食品保蔵学	3後			2							1
	食品管理化学	3前			2		1					
	食品衛生学	2後			2							1
	農産物加工学	2前			2							1
	食肉加工学	3前			2							1
	乳製品加工学	2後			2							1
	水産物加工学	2後			2		1					1
	味と食感の科学	3前			2		1					
小計 (30科目)	-	9	50		4	1		2			11	
専門応用科目	食品安全の経済学	4前		2								1
	食農マーケティング論	3前		2								1
	日本の食文化	3後		2								1
	日本の食文化実習	3後		1								1
	インターンシップ	3前		2								2
	食農コープ実習	4前		2								4
	醸造学演習Ⅰ	3前	2			5	1		2			
	醸造学演習Ⅱ	3後	2			5	1		2			
	醸造学演習Ⅲ	4前	2			5	1		2			
	醸造学演習Ⅳ	4後	2			5	1		2			
	卒業研究	4通	10			5	1		2			
小計 (11科目)	-	18	11		5	1		2			9	
合計 (131科目)	-	46	210		5	1		2			67	
卒業要件及び履修方法												
教養科目（総合A群、B群、C群）については、総合A群から必修科目4単位を含み16単位以上、総合B群及びC群から必修科目2単位を含み8単位以上、計24単位以上を修得すること。また、この内、言語教育科目8単位以上（留学生は日本語科目8単位を含み16単位以上）を修得するものとする。専門教育科目については、必修科目34単位を含み計100単位以上を修得すること。また、教養科目と専門教育科目を合わせて合計124単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：49単位（年間））												

科目区分	授業科目の名称	記当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	醸造分析化学	3後	2			2						
	醸造酵素化学	3前		2		1						
	醸造機能食品学	2前		2					1			
	醸造管理学	3前	2			1						
	微生物学	2前					1					
	醗酵微生物学	3後		2								1
	醸造微生物学	2前		2		1						
	微生物毒性学	3前		2			1					
	環境汚染物質分析学	3後		2								1
	日本酒学	3後		2		1						
	ワイン学	3後		2								1
	乳酸菌醸造学	3前		2					1			
	醸造学実習	3前	1			3	1		2			
	栄養化学	2後		2			1					
	食品機能分析化学	3前		2			2					
	機能性食品学	3後			2							1
	食品化学	2前			2							1
	食品生化学	3前			2							1
	醸造食品素材学	2前			2							1
	酵素工学	3後			2				1			
	食品遺伝子工学	3前			2							1
	食品加工化学	2後			2		1			1		
	食品保蔵学	3後			2							1
	食品管理化学	3前			2		1					
	食品衛生学	2後			2							1
	農産物加工学	2前			2							1
	食肉加工学	3前			2							1
	乳製品加工学	2後			2							1
	水産物加工学	2後			2		1					1
	味と食感の科学	3前			2		1					
小計 (30科目)	-	9	50		4	1		2			12	
専門応用科目	食品安全の経済学	4前		2								1
	食農マーケティング論	3前		2								1
	日本の食文化	3後		2								1
	日本の食文化実習	3後		1								1
	インターンシップ	3前		2								2
	食農コープ実習	4前		2								4
	醸造学演習Ⅰ	3前	2			5	1		2			
	醸造学演習Ⅱ	3後	2			5	1		2			
	醸造学演習Ⅲ	4前	2			5	1		2			
	醸造学演習Ⅳ	4後	2			5	1		2			
	卒業研究	4通	10			5	1		2			
小計 (11科目)	-	18	11		5	1		2			9	
合計 (131科目)	-	46	210		5	1		2			68	
卒業要件及び履修方法												
教養科目（総合A群、B群、C群）については、総合A群から必修科目4単位を含み16単位以上、総合B群及びC群から必修科目2単位を含み8単位以上、計24単位以上を修得すること。また、この内、言語教育科目8単位以上（留学生は日本語科目8単位を含み16単位以上）を修得するものとする。専門教育科目については、必修科目34単位を含み計100単位以上を修得すること。また、教養科目と専門教育科目を合わせて合計124単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：49単位（年間））												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
  - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【平成30年度】**

特になし。

**【令和元年度】**

- ・留学生を対象とした日本語教育科目の役割分担を明確化することを理由として、「日本語Ⅰ・Ⅱ」「応用日本語Ⅰ・Ⅱ」「日本語研究Ⅰ・Ⅱ」の兼任教員等の配置を2名から1名に変更。
- ・圃場における実習の充実を図ることを理由として「フィールド実習Ⅰ・Ⅱ」の教員配置を兼任・兼任教員3名から専任准教授1名、兼任・兼任教員6名に変更。
- ・講義の専門性を考慮し内容の充実を図ることを理由として「水産物加工学」の教員配置を教授1名から兼任・兼任教員1名とした。
- ・科目内容の充実を図ることを理由に、「生物学実験」の担当教員に兼任准教授を1名追加。
- ・講義内容の観点から、「キャリア開発Ⅱ」の配当年次を2年次から3年次に変更。

**【令和2年度】**

- ・「食品生化学」「機能性食品学」「食品遺伝子工学」の教員配置を兼任教員から専任教員に変更した。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
 ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
22 科目	109 科目	0 科目	131 科目	22 科目	109 科目	0 科目	131 科目	
				[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: Δ1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2	該当なし					
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2	該当なし					
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{131} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。



3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	順正高等看護福祉専門 学校と共用 登記面積変更に伴う変 更(30)			
	校舎敷地	41,292.00 m <sup>2</sup> <del>40,577.54 m<sup>2</sup></del>	78,399.04 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	119,691.04 m <sup>2</sup> <del>118,976.58 m<sup>2</sup></del>				
	運動場用地	15,970.00 m <sup>2</sup>	33,168.20 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	49,138.20 m <sup>2</sup>				
	小 計	57,262.00 m <sup>2</sup> <del>56,547.54 m<sup>2</sup></del>	111,567.24 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	168,829.24 m <sup>2</sup> <del>168,114.78 m<sup>2</sup></del>				
	そ の 他	16,893.03 m <sup>2</sup> <del>17,620.21 m<sup>2</sup></del>	84,341.15 m <sup>2</sup> <del>85,091.23 m<sup>2</sup></del>	0 m <sup>2</sup>	101,234.18 m <sup>2</sup> <del>102,711.44 m<sup>2</sup></del>				
	合 計	74,155.03 m <sup>2</sup> <del>74,167.75 m<sup>2</sup></del>	195,908.39 m <sup>2</sup> <del>196,658.47 m<sup>2</sup></del>	0 m <sup>2</sup>	270,063.42 m <sup>2</sup> <del>270,826.22 m<sup>2</sup></del>				
(2) 校 舎	専 用	45,781.77 m <sup>2</sup> <del>47,963.46 m<sup>2</sup></del>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	45,781.77 m <sup>2</sup> <del>47,963.46 m<sup>2</sup></del>	校舎取壊による面積の 減少(元) 醸造学科に係る建物の 届出時と登記した面積			
	45,781.77 m <sup>2</sup> <del>47,963.46 m<sup>2</sup></del>	( 0 m <sup>2</sup> )	( 0 m <sup>2</sup> )	45,781.77 m <sup>2</sup> <del>47,963.46 m<sup>2</sup></del>					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	59 室	32 室	85 室	5 室 (補助職員 0 人)	5 室 (補助職員 0 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	農学部 醸造学科			8 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	図書購入による増冊及 び学術雑誌・電子 ジャーナルの利用状況 見直しによる減少 (元)	
	農学部 醸造学科	7,488 [311] <del>7,283 [310]</del>	36 [ 1] 33 [ -1]	8 [ 7] 9 [ -8]	85 80	1,766	0		図書購入による増冊及 び視聴覚資料増加による 変更(2)
		(7,488 [311]) <del>(7,283 [310])</del>	( 36 [ 1]) <del>( 33 [ -1])</del>	( 8 [ 7]) <del>( 9 [ -8])</del>	( 85 ) <del>( 80 )</del>	( 1,766)	( 0)		
	計	7,488 [311] <del>7,283 [310]</del>	36 [ 1] 36 [ -1]	8 [ 7] 9 [ -8]	85 80	1,766	0		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 ラーニングコモンズ整 備に係る変更(30)		
	2,646 m <sup>2</sup> <del>2,149 m<sup>2</sup></del>		420		145,527 <del>144,819</del>				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
	2,625.50 m <sup>2</sup>		雨天練習場(野球) サッカー場(人工芝)1面						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費は大学全体
		教員1人当り研究費等	355 千円	326 千円	図書購入費	805 千円	200 千円	200 千円	
	共同研究費等	10,000 千円	10,000 千円	設備購入費	175,000 千円	300 千円	300 千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金, 資産運用収入, 雑収入等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。  
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。  
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。



4. 既設大学等の状況

大学の名称	吉備国際大学										備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
社会学研究科											
社会学専攻	3	4	—	12	博士(社会学)	0.16	0	—	平成9年度	岡山県高梁市伊賀町8番地	
博士(後期)課程											
社会学専攻	2	12	—	24	修士(社会学)	0.20	0.16	—	平成7年度	同上	
博士(前期)課程											
保健科学研究科											
保健科学専攻	3	3	—	9	博士(保健学)	0.77	0.33	—	平成17年度	同上	
博士(後期)課程											
保健科学専攻	2	6	—	12	修士(保健学)	0.33	0.33	—	平成12年度	同上	
博士(前期)課程											
心理学研究科											
心理学専攻	3	2	—	6	博士(心理学)	0.00	0	—	平成18年度	同上	
博士(後期)課程											
臨床心理学専攻	2	—	—	—	修士(臨床心理学)	—	—	—	平成16年度	同上	平成31年度より学生募集停止
修士課程											
心理学専攻	2	15	—	30	修士(心理学)	0.49	0.53	—	平成22年度	同上	
博士(前期)課程											
地域創成農学研究科											
地域創成農学専攻	3	2	—	4	博士(農学)	0.25	0	—	平成31年度	兵庫県南あわじ市西知礼尾370番1	
博士(後期)課程											
地域創成農学専攻	2	4	—	8	修士(農学)	0.75	0.75	—	平成29年度	同上	
博士(前期)課程											
(通信制)社会福祉学研究科											
社会福祉学専攻	2	—	—	—	修士(社会福祉学)	—	—	—	平成14年度	岡山県高梁市伊賀町8番地	平成31年度より学生募集停止
修士課程											
(通信制)連合国際協力研究科											
国際協力専攻	2	7	—	14	修士(国際協力)	1.14	1.57	—	平成18年度	同上	
修士課程											
(通信制)心理学研究科											
心理学専攻	3	3	—	9	博士(心理学)	0.33	0.33	—	平成18年度	同上	
博士(後期)課程											
(通信制)保健科学研究科											
理学療法学専攻	2	15	—	30	修士(理学療法)	0.39	0.26	—	平成20年度	同上	
修士課程											
作業療法学専攻	2	10	—	20	修士(作業療法)	0.95	1.00	—	平成22年度	同上	
修士課程											
(通信制)知的財産学研究科											
知的財産学専攻	2	—	—	—	修士(知的財産)	—	—	—	平成20年度	同上	令和2年度より学生募集停止
修士課程											
社会科学部											
経営社会学科	4	60	3年次10	260	学士(経営社会学)	1.00	1.15	—	平成25年度	同上	
スポーツ社会学科	4	80	—	360	学士(スポーツ社会学)	0.83	0.85	—	平成17年度	同上	平成31年度より入学定員減 (△20人)
保健医療福祉学部											
看護学科	4	60	3年次10	260	学士(看護学)	0.81	0.63	—	平成7年度	同上	
理学療法学科	4	40	—	160	学士(理学療法)	0.96	1.05	—	平成7年度	同上	
作業療法学科	4	40	—	160	学士(作業療法)	0.49	0.25	—	平成7年度	同上	
社会福祉学科	4	—	—	—	学士(社会福祉)	—	—	—	平成23年度	同上	平成31年度より学生募集停止
心理学部											
心理学科	4	50	—	190	学士(心理学)	0.99	1.3	—	平成19年度	同上	平成31年度より入学定員減 (△10人)
子ども発達教育学科	4	40	—	160	学士(子ども発達教育学)	0.34	0.27	—	平成23年度	同上	
農学部											
地域創成農学科	4	50	3年次10	230	学士(地域創成農学)	0.71	0.9	—	平成25年度	兵庫県南あわじ市西知礼尾370番1	平成30年度より入学定員減 (△10人)
醸造学科	4	40	—	120	学士(醸造学)	0.55	0.57	—	平成30年度	同上	
外国語学部											
外国学科	4	50	—	230	学士(外国語学)	0.82	1.32	—	平成26年度	岡山県岡山市北区奥田西5番5号	平成30年度より入学定員減 (△30人)
アニメーション文化学部											
アニメーション文化学科	4	40	—	160	学士(アニメーション文化)	0.72	1.1	—	平成26年度	岡山県高梁市伊賀町8番地	
通信教育部心理学部											
子ども発達教育学科	4	50	2年次30 3年次30	350	学士(子ども発達教育学)	0.25	0.38	—	平成24年度	同上	
大学全体	4	683	210	2818		0.59	0.63				

大 学 の 名 称		九州保健福祉大学										備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の学 科のみ)	開設 年度	所 在 地		
												年
医療薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程 (通信制)連合社会福祉学研究科	4	4	—	16	博士 (医療薬学)	0.12	0	—	平成24年度	宮崎県延岡市田野町1714番1		
社会福祉学専攻 博士(後期)課程 (通信制)社会福祉学研究科	3	5	—	15	博士 (社会福祉学)	0.60	0.40	—	平成16年度	同上		
社会福祉学専攻 修士課程 (通信制)保健科学研究科	2	20	—	40	修士 (社会福祉学)	0.22	0.20	—	平成14年度	同上		
保健科学専攻 博士(後期)課程	3	3	—	9	博士 (保健科学)	0.22	0	—	平成16年度	同上		
保健科学専攻 博士(前期)課程	2	7	—	14	修士 (保健科学)	1.42	0.57	—	平成14年度	同上		
社会福祉学部 スポーツ健康福祉学科	4	40	3年次 2	164	学士 (社会福祉学)	0.89	0.92	—	平成16年度	同上		
臨床福祉学科	4	40	3年次 2	214	学士 (社会福祉学)	0.48	0.27	—	平成11年度	同上	平成31年度より入学定員減 編入学定員減(△3人)	
保健科学部 作業療法学科	4	—	—	—	学士 (保健科学)	—	—	—	平成11年度	同上	令和2年度より学生募集停止	
言語聴覚療法学科	4	—	—	—	学士 (保健科学)	—	—	—	平成11年度	同上	令和2年度より学生募集停止	
視機能療法学科	4	—	—	—	学士 (保健科学)	—	—	—	平成11年度	同上	平成31年度より学生募集停止	
臨床工学科	4	—	—	—	学士 (保健科学)	—	—	—	平成19年度	同上	平成31年度より入学定員減 令和2年度より学生募集停止	
薬学部 薬学科	6	100	2年次3 4年次3	784	学士 (薬学)	0.87	0.66	—	平成15年度	同上	平成31年度より入学定員減 (△40人)	
動物生命薬科学科	4	40	—	160	学士 (動物生命薬科学)	0.53	0.70	—	平成20年度	同上		
生命医科学部 生命医科学科	4	80	—	260	学士 (生命医科学)	0.86	0.82	—	平成27年度	同上	定員変更(20人)	
臨床心理学部 臨床心理学科	4	40	—	40	学士 (臨床心理学)	1.20	1.20	—	令和2年度	同上		
通信教育部社会福祉学部 臨床福祉学科	4	300	2年次30 3年次150 4年次10	2200	学士 (社会福祉学)	0.16	0.09	—	平成14年度	同上	定員変更(△200人)	
大学全体	4	679	432	3916		0.63	0.49					

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。  
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
  - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<農学部 醸造学科>

(1)-①担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		氏名 (年齢)
専	教授	橋本 久美子 (52) <平成30年4月> 博士(理学)
		情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ 物理学 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ 農業気象学 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究
専	教授	金沢 和樹 (68) <平成30年4月> 農学博士
		醸造学概論 ※ 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ 食の安全学 ※ 化学実験 醸造学実習 栄養化学 食品機能分析化学 食品加工化学 ※ 食品管理化学 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究
専	教授	福田 恵温 (65) <平成30年4月> 農学博士
		醸造学概論 ※ 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ 化学実験 醸造分析化学 ※ 醸造酵素化学 醸造学実習 味と食感の科学 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		氏名 (年齢)
専	教授	橋本 久美子 (53) <平成30年4月> 博士(理学)
		情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ 物理学 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ 農業気象学 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究
専	教授	金沢 和樹 (69) <平成30年4月> 農学博士
		醸造学概論 ※ 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ 食の安全学 ※ 化学実験 醸造学実習 栄養化学 食品機能分析化学 食品加工化学 ※ 食品管理化学 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究
専	教授	福田 恵温 (66) <平成30年4月> 農学博士
		醸造学概論 ※ 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ 化学実験 醸造分析化学 ※ 醸造酵素化学 醸造学実習 味と食感の科学 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		氏名 (年齢)
専	教授	橋本 久美子 (54) <平成30年4月> 博士(理学)
		情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ 物理学 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ 農業気象学 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究
専	教授	土井裕司 (69) <平成31年4月> 農学博士
		醸造学概論 ※ 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ 食の安全学 ※ 化学実験 醸造学実習 栄養化学 食品加工化学 ※ 食品管理化学 食品化学 食品衛生学 醸造食品素材学 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究
専	教授	福田 恵温 (67) <平成30年4月> 農学博士
		醸造学概論 ※ 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ 化学実験 食品機能分析化学 ※ 醸造分析化学 ※ 醸造酵素化学 醸造学実習 味と食感の科学 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		氏名 (年齢)
専	教授	橋本 久美子 (55) <平成30年4月> 博士(理学)
		情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ 物理学 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ 農業気象学 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究
専	教授	土井裕司 (70) <平成31年4月> 農学博士
		醸造学概論 ※ 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ 食の安全学 ※ 化学実験 醸造学実習 栄養化学 食品加工化学 ※ 食品管理化学 食品化学 食品衛生学 食品生化学 醸造食品素材学 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究
専	教授	福田 恵温 (68) <平成30年4月> 農学博士
		醸造学概論 ※ 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ 化学実験 食品機能分析化学 ※ 機能性食品学 ※ 醸造分析化学 ※ 醸造酵素化学 醸造学実習 味と食感の科学 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
専 教授	井上 守正 (54) <平成30年4月> 農学士	醸造学概論 ※ 基礎演習 I 基礎演習 II 基礎演習 III 基礎演習 IV 化学実験 醸造分析化学 ※ 醸造管理学 日本酒学 醸造学実習 水産物加工学 醸造学演習 I 醸造学演習 II 醸造学演習 III 醸造学演習 IV 卒業研究
		眞山 滋志 (72) <平成30年4月> Ph. D. in Botany (米国)
専 准教授	村上 二郎 (47) <平成30年4月> 博士(農学)	醸造学概論 ※ 基礎演習 I 基礎演習 II 基礎演習 III 基礎演習 IV 分子生物学 ※ 食の安全学 ※ 生物学実験 化学実験 総合防除管理学 ※ フィールド実習 I フィールド実習 II 微生物学 微生物毒性学 醸造学実習 醸造学演習 I 醸造学演習 II 醸造学演習 III 醸造学演習 IV 卒業研究
		金沢 功 (31) <平成30年4月> 修士(農学)
専 助教	林 将也 (28) <平成31年4月> 博士(農学)	基礎演習 III 基礎演習 IV 化学実験 乳酸菌醸造学 醸造学実習 醸造学実習 醸造学演習 I 醸造学演習 II 醸造学演習 III 醸造学演習 IV 卒業研究
		末吉 秀二 (60) <平成30年4月> 保健学博士
兼任 教授	吉備国際大から世界へ 多文化理解 人類生態学	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
専 教授	井上 守正 (55) <平成30年4月> 農学士	醸造学概論 ※ 基礎演習 I 基礎演習 II 基礎演習 III 基礎演習 IV 化学実験 醸造分析化学 ※ 醸造管理学 日本酒学 醸造学実習 水産物加工学 醸造学演習 I 醸造学演習 II 醸造学演習 III 醸造学演習 IV 卒業研究
		眞山 滋志 (73) <平成30年4月> Ph. D. in Botany (米国)
専 准教授	村上 二郎 (48) <平成30年4月> 博士(農学)	醸造学概論 ※ 食の安全学 ※ 醸造微生物学 醸造学演習 I 醸造学演習 II 醸造学演習 III 醸造学演習 IV 卒業研究
		金沢 功 (32) <平成30年4月> 修士(農学)
専 助教	林 将也 (29) <平成31年4月> 博士(農学)	基礎演習 III 基礎演習 IV 化学実験 乳酸菌醸造学 醸造学実習 醸造学実習 醸造学演習 I 醸造学演習 II 醸造学演習 III 醸造学演習 IV 卒業研究
		末吉 秀二 (61) <平成30年4月> 保健学博士
兼任 教授	吉備国際大から世界へ 多文化理解 人類生態学	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
専 教授	井上 守正 (56) <平成30年4月> 農学士	醸造学概論 ※ 基礎演習 I 基礎演習 II 基礎演習 III 基礎演習 IV 化学実験 <b>食品機能分析化学</b> 醸造分析化学 ※ 醸造管理学 醸造学実習 <b>水産物加工学</b> 醸造学演習 I 醸造学演習 II 醸造学演習 III 醸造学演習 IV 卒業研究
		眞山 滋志 (74) <平成30年4月> Ph. D. in Botany (米国)
専 准教授	村上 二郎 (49) <平成30年4月> 博士(農学)	醸造学概論 ※ 食の安全学 ※ 醸造微生物学 醸造学演習 I 醸造学演習 II 醸造学演習 III 醸造学演習 IV 卒業研究
		金沢 功 (33) <平成30年4月> 修士(農学)
専 助教	林 将也 (30) <平成31年4月> 博士(農学)	基礎演習 III 基礎演習 IV 化学実験 乳酸菌醸造学 醸造学実習 醸造学実習 醸造学演習 I 醸造学演習 II 醸造学演習 III 醸造学演習 IV 卒業研究
		末吉 秀二 (62) <平成30年4月> 保健学博士
兼任 教授	吉備国際大から世界へ 多文化理解 人類生態学	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
専 教授	井上 守正 (57) <平成30年4月> 農学士	醸造学概論 ※ 基礎演習 I 基礎演習 II 基礎演習 III 基礎演習 IV 化学実験 <b>食品機能分析化学</b> 醸造分析化学 ※ 醸造管理学 醸造学実習 <b>水産物加工学</b> 醸造学演習 I 醸造学演習 II 醸造学演習 III 醸造学演習 IV 卒業研究
		眞山 滋志 (75) <平成30年4月> Ph. D. in Botany (米国)
専 准教授	村上 二郎 (50) <平成30年4月> 博士(農学)	醸造学概論 ※ 食の安全学 ※ 醸造微生物学 醸造学演習 I 醸造学演習 II 醸造学演習 III 醸造学演習 IV 卒業研究
		金沢 功 (34) <平成30年4月> 修士(農学)
専 助教	林 将也 (31) <平成31年4月> 博士(農学)	基礎演習 III 基礎演習 IV 化学実験 乳酸菌醸造学 醸造学実習 醸造学実習 醸造学演習 I 醸造学演習 II 醸造学演習 III 醸造学演習 IV 卒業研究
		末吉 秀二 (63) <平成30年4月> 保健学博士
兼任 教授	吉備国際大から世界へ 多文化理解 人類生態学	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	生駒 正文 (71) <平成30年4月> 法学修士※ 民法 インターンシップ
兼任	教授 (学部長)	谷坂 隆俊 (70) <平成30年4月> 農学博士 遺伝学 食の安全学 ※ 植物育種学概論
兼任	教授	石井 英夫 (67) <平成30年4月> 農学博士 生物の進化と多様性 植物病理学 植物細胞生理学
兼任	教授	森野(堀内) 真理 (50) <平成30年4月> 博士(工学) 環境科学 生物学 総合防除管理学 ※ 生物統計学
兼任	教授	加古 敏之 (70) <平成30年4月> Doctor of Philosophy (Agricultural Economics) (米国) 現代農業論 食の安全学 ※ 食農コープ実習
兼任	准教授	濱島 敦博 (43) <平成30年4月> 修士※(農学) 経済学
兼任	准教授	平井 順 (44) <平成30年4月> 博士(社会学) 社会科学 社会と統計 統計学
兼任	准教授	吉川 貴徳 (35) <平成30年4月> 博士(農学) 分子生物学 ※ 食の安全学 ※ 生物学実験 フィールド実習 I フィールド実習 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	生駒 正文 (72) <平成30年4月> 法学修士※ 民法 インターンシップ
兼任	教授 (学部長)	谷坂 隆俊 (71) <平成30年4月> 農学博士 遺伝学 食の安全学 ※ 植物育種学概論
兼任	教授	石井 英夫 (68) <平成30年4月> 農学博士 生物の進化と多様性 植物病理学 植物細胞生理学
兼任	教授	森野(堀内) 真理 (51) <平成30年4月> 博士(工学) 環境科学 生物学 総合防除管理学 ※ 生物統計学
兼任	教授	加古 敏之 (71) <平成30年4月> Doctor of Philosophy (Agricultural Economics) (米国) 現代農業論 食の安全学 ※ 食農コープ実習
兼任	准教授	濱島 敦博 (44) <平成30年4月> 修士※(農学) 経済学
兼任	准教授	平井 順 (45) <平成30年4月> 博士(社会学) 社会科学 社会と統計 統計学
兼任	准教授	検原 健一郎 (41) <平成30年4月> 博士 (バイオサイエンス) 分子生物学 ※ 食の安全学 ※ 生物学実験 フィールド実習 I フィールド実習 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	生駒 正文 (73) <平成30年4月> 法学修士※ 日本国憲法 民法 インターンシップ
兼任	教授 (学部長)	谷坂 隆俊 (72) <平成30年4月> 農学博士 遺伝学 食の安全学 ※ 植物育種学概論
兼任	教授	相野 公孝 (60) <平成31年4月> 農学博士 生物の進化と多様性 植物病理学 植物細胞生理学 フィールド実習 I フィールド実習 II
兼任	教授	森野(堀内) 真理 (52) <平成30年4月> 博士(工学) 環境科学 生物学 総合防除管理学 ※ 生物統計学
兼任	准教授	濱島 敦博 (45) <平成30年4月> 修士※(農学) 経済学
兼任	准教授	平井 順 (46) <平成30年4月> 博士(社会学) 社会科学 社会と統計 統計学
兼任	准教授	検原 健一郎 (42) <平成30年4月> 博士 (バイオサイエンス) 分子生物学 ※ 食の安全学 ※ 生物学実験 フィールド実習 I フィールド実習 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	生駒 正文 (74) <平成30年4月> 法学修士※ 日本国憲法 民法 インターンシップ
兼任	教授 (学部長)	谷坂 隆俊 (73) <平成30年4月> 農学博士 遺伝学 食の安全学 ※ 植物育種学概論
兼任	教授	相野 公孝 (61) <平成31年4月> 農学博士 生物の進化と多様性 植物病理学 植物細胞生理学 フィールド実習 I フィールド実習 II
兼任	教授	森野(堀内) 真理 (53) <平成30年4月> 博士(工学) 環境科学 生物学 総合防除管理学 ※ 生物統計学
兼任	准教授	濱島 敦博 (46) <平成30年4月> 修士※(農学) 経済学
兼任	准教授	平井 順 (47) <平成30年4月> 博士(社会学) 社会科学 社会と統計 統計学
兼任	准教授	検原 健一郎 (43) <平成30年4月> 博士 (バイオサイエンス) 分子生物学 ※ 食の安全学 ※ 生物学実験 フィールド実習 I フィールド実習 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		担当授業科目名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
兼任 講師		正井 良徳 (77) <平成30年4月> 文学士
		地域学概論 ※ 文学への招待
兼任 講師		武田 信一 (81) <平成30年4月> 教育学士
		地域学概論 ※
兼任 講師		山本 慶子 (70) <平成30年4月> 博士(学術)
		地域貢献ボランティア キャリア開発Ⅰ キャリア開発Ⅱ 文章表現入門 インターンシップ
兼任 講師		今田 圭介 (58) <平成30年4月> 商学士
		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任 講師		吉田 慶 (56) <平成30年4月> 史学士(中国)
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ
兼任 講師		元木 佳江 (57) <平成30年4月> 修士(教育学)
		日本語ⅠA 日本語ⅠB 日本語ⅡA 日本語ⅡB 応用日本語ⅠA 応用日本語ⅠB 応用日本語ⅡA 応用日本語ⅡB 日本語研究ⅠA 日本語研究ⅠB 日本語研究ⅡA 日本語研究ⅡB

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		担当授業科目名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
兼任 助教		許 冲 (30) <平成30年4月> 博士(農学)
		分子生物学 ※ 食の安全学 ※ 生物学実験 フィールド実習Ⅰ フィールド実習Ⅱ
兼任 講師		正井 良徳 (78) <平成30年4月> 文学士
		地域学概論 ※ 文学への招待
兼任 講師		武田 信一 (82) <平成30年4月> 教育学士
		地域学概論 ※
兼任 講師		山本 慶子 (71) <平成30年4月> 博士(学術)
		地域貢献ボランティア キャリア開発Ⅰ キャリア開発Ⅱ 文章表現入門 インターンシップ
兼任 講師		板倉 利治 (57) <平成30年4月>
		キャリア開発Ⅰ
兼任 講師		今田 圭介 (59) <平成30年4月> 商学士
		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任 講師		吉田 慶 (57) <平成30年4月> 史学士(中国)
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ
兼任 講師		元木 佳江 (58) <平成30年4月> 修士(教育学)
		日本語ⅠA 日本語ⅠB 日本語ⅡA 日本語ⅡB 応用日本語ⅠA 応用日本語ⅠB 応用日本語ⅡA 応用日本語ⅡB 日本語研究ⅠA 日本語研究ⅠB 日本語研究ⅡA 日本語研究ⅡB

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		担当授業科目名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
兼任 准教授		水見 英子 (48) <平成31年4月> 博士 (農学)
		分子生物学 ※ 食の安全学 ※ 生物学実験 フィールド実習Ⅰ フィールド実習Ⅱ
兼任 助教		許 冲 (31) <平成30年4月> 博士(農学)
		分子生物学 ※ 食の安全学 ※ 生物学実験 フィールド実習Ⅰ フィールド実習Ⅱ
兼任 講師		正井 良徳 (79) <平成30年4月> 文学士
		地域学概論 ※ 文学への招待
兼任 講師		武田 信一 (83) <平成30年4月> 教育学士
		地域学概論 ※
兼任 講師		山本 慶子 (72) <平成30年4月> 博士(学術)
		地域貢献ボランティア キャリア開発Ⅰ キャリア開発Ⅱ 文章表現入門 インターンシップ 食農コープ実習
兼任 講師		板倉 利治 (58) <平成30年4月>
		キャリア開発Ⅰ キャリア開発Ⅱ
兼任 講師		今田 圭介 (60) <平成30年4月> 商学士
		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ 日本語ⅠA 日本語ⅠB 日本語ⅡA 日本語ⅡB
兼任 講師		吉田 慶 (58) <平成30年4月> 史学士(中国)
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		担当授業科目名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
兼任 准教授		水見 英子 (49) <平成31年4月> 博士 (農学)
		分子生物学 ※ 食の安全学 ※ 生物学実験 フィールド実習Ⅰ フィールド実習Ⅱ
兼任 助教		許 冲 (32) <平成30年4月> 博士(農学)
		分子生物学 ※ 食の安全学 ※ 生物学実験 フィールド実習Ⅰ フィールド実習Ⅱ
兼任 講師		正井 良徳 (80) <平成30年4月> 文学士
		地域学概論 ※ 文学への招待
兼任 講師		武田 信一 (84) <平成30年4月> 教育学士
		地域学概論 ※
兼任 講師		山本 慶子 (73) <平成30年4月> 博士(学術)
		地域貢献ボランティア キャリア開発Ⅰ キャリア開発Ⅱ 文章表現入門 インターンシップ 食農コープ実習
兼任 講師		板倉 利治 (59) <平成30年4月>
		キャリア開発Ⅰ キャリア開発Ⅱ
兼任 講師		今田 圭介 (61) <平成30年4月> 商学士
		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ 日本語ⅠA 日本語ⅠB 日本語ⅡA 日本語ⅡB
兼任 講師		吉田 慶 (59) <平成30年4月> 史学士(中国)
		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	生駒 恵子 (62) <平成30年4月> 学士(法学)
		日本語ⅠA 日本語ⅠB 日本語ⅡA 日本語ⅡB 応用日本語ⅠA 応用日本語ⅠB 応用日本語ⅡA 応用日本語ⅡB 日本語研究ⅠA 日本語研究ⅠB 日本語研究ⅡA 日本語研究ⅡB
兼任	講師	丹羽 三恵子 (69) <平成30年4月> 学士(造形)
		美術の見方
兼任	講師	佐竹 裕子 (56) <平成31年4月> 芸術学士
		音楽の楽しみ
兼任	講師	宇都宮 敏晴 (68) <平成30年4月> 保健体育学士
		生涯スポーツ論 生涯スポーツ実習
兼任	講師	竹原 弘 (69) <平成30年4月> 文学修士※
		哲学 倫理学
兼任	講師	日種 晃嗣 (44) <平成30年4月> 学士(法学)
		宗教学
兼任	講師	松下 徹 (55) <平成30年4月> 教育学修士※
		心理学
兼任	講師	谷坂 真紀子 (38) <平成30年4月> 法務博士(専門職)
		日本国憲法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	生駒 恵子 (63) <平成30年4月> 学士(法学)
		日本語Ⅰ-A 日本語ⅠB 日本語ⅡA 日本語ⅡB 応用日本語Ⅰ-A 応用日本語ⅠB 応用日本語ⅡA 応用日本語ⅡB 日本語研究Ⅰ-A 日本語研究ⅠB 日本語研究ⅡA 日本語研究ⅡB
兼任	講師	大下 朋子 (41) <平成30年4月> 修士(社会学)
		日本語ⅠA 応用日本語ⅠA 日本語研究ⅠA
兼任	講師	丹羽 三恵子 (70) <平成30年4月> 学士(造形)
		美術の見方
兼任	講師	佐竹 裕子 (57) <平成31年4月> 芸術学士
		音楽の楽しみ
兼任	講師	宇都宮 敏晴 (69) <平成30年4月> 保健体育学士
		生涯スポーツ論 生涯スポーツ実習
兼任	講師	竹原 弘 (70) <平成30年4月> 文学修士※
		哲学 倫理学
兼任	講師	日種 晃嗣 (45) <平成30年4月> 学士(法学)
		宗教学
兼任	講師	松下 徹 (56) <平成30年4月> 教育学修士※
		心理学
兼任	講師	谷坂 真紀子 (39) <平成30年4月> 法務博士(専門職)
		日本国憲法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	富岡 直美 (45) <平成31年4月> 修士(教育学)
		応用日本語ⅠA 応用日本語ⅠB 応用日本語ⅡA 応用日本語ⅡB
兼任	講師	田村 剛志 (60) <平成31年4月> 農学士
		日本語ⅠA 応用日本語ⅠA 日本語研究ⅠA
兼任	講師	丹羽 三恵子 (71) <平成30年4月> 学士(造形)
		美術の見方
兼任	講師	太田 久美子 (46) <平成31年4月> 芸術学士
		音楽の楽しみ
兼任	講師	宇都宮 敏晴 (70) <平成30年4月> 保健体育学士
		生涯スポーツ論 生涯スポーツ実習
兼任	講師	竹原 弘 (71) <平成30年4月> 文学修士※
		哲学 倫理学
兼任	講師	日種 晃嗣 (46) <平成30年4月> 学士(法学)
		宗教学
兼任	講師	松下 徹 (57) <平成30年4月> 教育学修士※
		心理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	富岡 直美 (46) <平成31年4月> 修士(教育学)
		応用日本語ⅠA 応用日本語ⅠB 応用日本語ⅡA 応用日本語ⅡB
兼任	講師	田村 剛志 (61) <平成31年4月> 農学士
		日本語ⅠA 応用日本語ⅠA 日本語研究ⅠA
兼任	講師	丹羽 三恵子 (72) <平成30年4月> 学士(造形)
		美術の見方
兼任	講師	太田 久美子 (47) <平成31年4月> 芸術学士
		音楽の楽しみ
兼任	講師	宇都宮 敏晴 (71) <平成30年4月> 保健体育学士
		生涯スポーツ論 生涯スポーツ実習
兼任	講師	竹原 弘 (72) <平成30年4月> 文学修士※
		哲学 倫理学
兼任	講師	日種 晃嗣 (47) <平成30年4月> 学士(法学)
		宗教学
兼任	講師	松下 徹 (58) <平成30年4月> 教育学修士※
		心理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	内藤 智秋 (47) <平成31年4月> 修士(国際関係学)
		人権と政治
兼任	講師	佐々木 満 (70) <平成30年4月> 農学博士
		化学 有機化学 農薬学 ※
兼任	講師	増田 順 (74) <平成31年4月> 教育学士
		数学
兼任	講師	勤如 純一 (65) <平成30年4月> 農学士
		南あわじ農業学
兼任	講師	堤 俊彦 (67) <平成32年4月> 高等学校卒
		日本の伝統実技Ⅰ(文)※
兼任	講師	堤 初美 (66) <平成32年4月> 高等学校卒
		日本の伝統実技Ⅰ(文)※
兼任	講師	森川 勝次 (73) <平成32年4月> 文学士
		日本の伝統実技Ⅱ(武)
兼任	講師	築山 拓司 (41) <平成30年4月> 博士(農学)
		ゲノム情報学
兼任	講師	長谷川 博 (69) <平成30年4月> 農学博士
		植物生理学
兼任	講師	山田 利昭 (72) <平成30年4月> 農学博士
		農業技術政策論 栽培学
兼任	講師	水野 雅史 (59) <平成31年4月> 学術博士
		生物化学
兼任	講師	宇野 雄一 (50) <平成31年4月> 博士(農学)
		野菜園芸学
兼任	講師	能勢 健吉 (67) <平成31年4月> 農学士
		花卉園芸学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	内藤 智秋 (48) <平成31年4月> 修士(国際関係学)
		人権と政治
兼任	講師	佐々木 満 (71) <平成30年4月> 農学博士
		化学 有機化学 農薬学 ※
兼任	講師	増田 順 (75) <平成31年4月> 教育学士
		数学
兼任	講師	勤如 純一 (66) <平成30年4月> 農学士
		南あわじ農業学
兼任	講師	堤 俊彦 (68) <平成32年4月> 高等学校卒
		日本の伝統実技Ⅰ(文)※
兼任	講師	堤 初美 (67) <平成32年4月> 高等学校卒
		日本の伝統実技Ⅰ(文)※
兼任	講師	森川 勝次 (74) <平成32年4月> 文学士
		日本の伝統実技Ⅱ(武)
兼任	講師	築山 拓司 (42) <平成30年4月> 博士(農学)
		ゲノム情報学
兼任	講師	長谷川 博 (70) <平成30年4月> 農学博士
		植物生理学
兼任	講師	山田 利昭 (73) <平成30年4月> 農学博士
		農業技術政策論 栽培学
兼任	講師	水野 雅史 (60) <平成31年4月> 学術博士
		生物化学
兼任	講師	宇野 雄一 (51) <平成31年4月> 博士(農学)
		野菜園芸学
兼任	講師	能勢 健吉 (68) <平成31年4月> 農学士
		花卉園芸学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	内藤 智秋 (49) <平成31年4月> 修士(国際関係学)
		人権と政治
兼任	講師	佐々木 満 (72) <平成30年4月> 農学博士
		化学 有機化学 農薬学 ※
兼任	講師	増田 順 (76) <平成31年4月> 教育学士
		数学
兼任	講師	勤如 純一 (67) <平成30年4月> 農学士
		南あわじ農業学
兼任	講師	堤 俊彦 (69) <平成32年4月> 高等学校卒
		日本の伝統実技Ⅰ(文)※
兼任	講師	堤 初美 (68) <平成32年4月> 高等学校卒
		日本の伝統実技Ⅰ(文)※
兼任	講師	森川 勝次 (75) <平成32年4月> 文学士
		日本の伝統実技Ⅱ(武)
兼任	講師	築山 拓司 (43) <平成30年4月> 博士(農学)
		ゲノム情報学
兼任	講師	長谷川 博 (71) <平成30年4月> 農学博士
		植物生理学
兼任	講師	山田 利昭 (74) <平成30年4月> 農学博士
		農業技術政策論 栽培学
兼任	講師	水野 雅史 (61) <平成31年4月> 学術博士
		生物化学
兼任	講師	宇野 雄一 (52) <平成31年4月> 博士(農学)
		野菜園芸学
兼任	講師	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	内藤 智秋 (50) <平成31年4月> 修士(国際関係学)
		人権と政治
兼任	講師	佐々木 満 (73) <平成30年4月> 農学博士
		化学 有機化学 農薬学 ※
兼任	講師	増田 順 (77) <平成31年4月> 教育学士
		数学
兼任	講師	勤如 純一 (68) <平成30年4月> 農学士
		南あわじ農業学
兼任	講師	堤 俊彦 (70) <平成32年4月> 高等学校卒
		日本の伝統実技Ⅰ(文)※
兼任	講師	堤 初美 (69) <平成32年4月> 高等学校卒
		日本の伝統実技Ⅰ(文)※
兼任	講師	森川 勝次 (76) <平成32年4月> 文学士
		日本の伝統実技Ⅱ(武)
兼任	講師	築山 拓司 (44) <平成30年4月> 博士(農学)
		ゲノム情報学
兼任	講師	長谷川 博 (72) <平成30年4月> 農学博士
		植物生理学
兼任	講師	山田 利昭 (75) <平成30年4月> 農学博士
		農業技術政策論 栽培学
兼任	講師	水野 雅史 (62) <平成31年4月> 学術博士
		生物化学
兼任	講師	宇野 雄一 (53) <平成31年4月> 博士(農学)
		野菜園芸学
兼任	講師	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	梅津 憲治 (71) ＜平成31年4月＞ 農学博士
		総合防除管理学 ※ 施設栽培・植物工場論 農業学 ※
兼任	講師	草刈 眞一 (71) ＜平成33年4月＞ 農学博士
		総合防除管理学 ※
兼任	講師	内藤 親彦 (75) ＜平成31年4月＞ 農学修士
		応用昆虫学
兼任	講師	須藤 健一 (67) ＜平成32年4月＞ 農学修士
		雑草学
兼任	講師	向井 文雄 (67) ＜平成30年4月＞ 農学博士
		家畜とその飼養管理 ※
兼任	講師	辻 莊一 (75) ＜平成30年4月＞ 農学博士
		家畜とその飼養管理 ※ 家畜の育種と繁殖 ※
兼任	講師	大山 憲二 (48) ＜平成30年4月＞ 博士(農学)
		家畜とその飼養管理 ※ 家畜の育種と繁殖 ※
兼任	講師	上曾山 博 (61) ＜平成30年4月＞ 博士(農学)
		家畜とその飼養管理 ※
兼任	講師	万年 英之 (54) ＜平成32年4月＞ 博士(農学)
		家畜の育種と繁殖 ※
兼任	講師	三宅 正史 (69) ＜平成31年4月＞ 農学博士
		家畜の育種と繁殖 ※ 家畜とバイオテクノロジー
兼任	講師	北川 浩 (67) ＜平成32年4月＞ 獣医学博士
		家畜の構造と病気 ※
兼任	講師	星 信彦 (61) ＜平成32年4月＞ 博士(医学)
		家畜の構造と病気 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	梅津 憲治 (72) ＜平成31年4月＞ 農学博士
		総合防除管理学 ※ 施設栽培・植物工場論 農業学 ※
兼任	講師	草刈 眞一 (72) ＜平成31年4月＞ 農学博士
		総合防除管理学 ※
兼任	講師	内藤 親彦 (76) ＜平成31年4月＞ 農学修士
		応用昆虫学
兼任	講師	須藤 健一 (68) ＜平成32年4月＞ 農学修士
		雑草学
兼任	講師	向井 文雄 (68) ＜平成30年4月＞ 農学博士
		家畜とその飼養管理 ※
兼任	講師	辻 莊一 (76) ＜平成30年4月＞ 農学博士
		家畜とその飼養管理 ※ 家畜の育種と繁殖 ※
兼任	講師	大山 憲二 (49) ＜平成30年4月＞ 博士(農学)
		家畜とその飼養管理 ※ 家畜の育種と繁殖 ※
兼任	講師	上曾山 博 (62) ＜平成30年4月＞ 博士(農学)
		家畜とその飼養管理 ※
兼任	講師	万年 英之 (55) ＜平成32年4月＞ 博士(農学)
		家畜の育種と繁殖 ※
兼任	講師	三宅 正史 (70) ＜平成31年4月＞ 農学博士
		家畜の育種と繁殖 ※ 家畜とバイオテクノロジー
兼任	講師	北川 浩 (68) ＜平成32年4月＞ 獣医学博士
		家畜の構造と病気 ※
兼任	講師	星 信彦 (62) ＜平成32年4月＞ 博士(医学)
		家畜の構造と病気 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	礼笠 高志 (46) ＜平成31年4月＞ 博士(農学)
		花卉園芸学
兼任	講師	梅津 憲治 (73) ＜平成31年4月＞ 農学博士
		総合防除管理学 ※ 施設栽培・植物工場論 農業学 ※
兼任	講師	草刈 眞一 (73) ＜平成33年4月＞ 農学博士
		総合防除管理学 ※
兼任	講師	内藤 親彦 (77) ＜平成31年4月＞ 農学修士
		応用昆虫学
兼任	講師	須藤 健一 (69) ＜平成32年4月＞ 農学修士
		雑草学
兼任	講師	向井 文雄 (69) ＜平成30年4月＞ 農学博士
		家畜とその飼養管理 ※
兼任	講師	辻 莊一 (77) ＜平成30年4月＞ 農学博士
		家畜とその飼養管理 ※ 家畜の育種と繁殖 ※
兼任	講師	大山 憲二 (50) ＜平成30年4月＞ 博士(農学)
		家畜とその飼養管理 ※ 家畜の育種と繁殖 ※
兼任	講師	上曾山 博 (63) ＜平成30年4月＞ 博士(農学)
		家畜とその飼養管理 ※
兼任	講師	万年 英之 (56) ＜平成32年4月＞ 博士(農学)
		家畜の育種と繁殖 ※
兼任	講師	三宅 正史 (71) ＜平成31年4月＞ 農学博士
		家畜の育種と繁殖 ※ 家畜とバイオテクノロジー
兼任	講師	北川 浩 (69) ＜平成32年4月＞ 獣医学博士
		家畜の構造と病気 ※
兼任	講師	星 信彦 (63) ＜平成32年4月＞ 博士(医学)
		家畜の構造と病気 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	礼笠 高志 (47) ＜平成31年4月＞ 博士(農学)
		花卉園芸学
兼任	講師	梅津 憲治 (74) ＜平成31年4月＞ 農学博士
		総合防除管理学 ※ 施設栽培・植物工場論 農業学 ※
兼任	講師	草刈 眞一 (74) ＜平成33年4月＞ 農学博士
		総合防除管理学 ※
兼任	講師	内藤 親彦 (78) ＜平成31年4月＞ 農学修士
		応用昆虫学
兼任	講師	須藤 健一 (70) ＜平成32年4月＞ 農学修士
		雑草学
兼任	講師	向井 文雄 (70) ＜平成30年4月＞ 農学博士
		家畜とその飼養管理 ※
兼任	講師	辻 莊一 (78) ＜平成30年4月＞ 農学博士
		家畜とその飼養管理 ※ 家畜の育種と繁殖 ※
兼任	講師	大山 憲二 (51) ＜平成30年4月＞ 博士(農学)
		家畜とその飼養管理 ※ 家畜の育種と繁殖 ※
兼任	講師	上曾山 博 (64) ＜平成30年4月＞ 博士(農学)
		家畜とその飼養管理 ※
兼任	講師	万年 英之 (57) ＜平成32年4月＞ 博士(農学)
		家畜の育種と繁殖 ※
兼任	講師	三宅 正史 (72) ＜平成31年4月＞ 農学博士
		家畜の育種と繁殖 ※ 家畜とバイオテクノロジー
兼任	講師	北川 浩 (70) ＜平成32年4月＞ 獣医学博士
		家畜の構造と病気 ※
兼任	講師	星 信彦 (64) ＜平成32年4月＞ 博士(医学)
		家畜の構造と病気 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		担当授業科目名
兼任	講師	河野 潤一 (65) ＜平成32年4月＞ 獣医学博士
		家畜の構造と病気 ※
兼任	講師	大澤 朗 (64) ＜平成32年4月＞ 農学博士
		家畜の構造と病気 ※
兼任	講師	盛野 元 (62) ＜平成30年4月＞ 農学士
		フィールド実習Ⅰ フィールド実習Ⅱ 食農コープ実習
兼任	講師	函城 悦司 (70) ＜平成30年4月＞ 獣医学博士
		フィールド実習Ⅰ フィールド実習Ⅱ 食農コープ実習
兼任	講師	吉田 健一 (55) ＜平成32年4月＞ 博士(農学)
		醸酵微生物学
兼任	講師	福田 伊津子 (42) ＜平成32年4月＞ 博士(学術)
		環境汚染物質分析学
兼任	講師	三田村 雅 (77) ＜平成32年4月＞ 工学士
		ワイン学
兼任	講師	向井 理恵 (40) ＜平成32年4月＞ 博士(農学)
		機能性食品学
兼任	講師	土井 裕司 (68) ＜平成31年4月＞ 農学博士
		食品化学 醸造食品素材学 食品衛生学
兼任	講師	榊原 啓之 (45) ＜平成32年4月＞ 博士(学術)
		食品生化学
兼任	講師	丸山 伸之 (50) ＜平成32年4月＞ 博士(農学)
		食品遺伝子工学
兼任	講師	上田 悦範 (78) ＜平成32年4月＞ 農学博士
		食品保蔵学
兼任	講師	畠中 知子 (55) ＜平成31年4月＞ 博士(学術)
		農産物加工学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		担当授業科目名
兼任	講師	河野 潤一 (66) ＜平成32年4月＞ 獣医学博士
		家畜の構造と病気 ※
兼任	講師	大澤 朗 (65) ＜平成32年4月＞ 農学博士
		家畜の構造と病気 ※
兼任	講師	盛野 元 (63) ＜平成30年4月＞ 農学士
		フィールド実習Ⅰ フィールド実習Ⅱ 食農コープ実習
兼任	講師	函城 悦司 (71) ＜平成30年4月＞ 獣医学博士
		フィールド実習Ⅰ フィールド実習Ⅱ 食農コープ実習
兼任	講師	吉田 健一 (56) ＜平成32年4月＞ 博士(農学)
		醸酵微生物学
兼任	講師	福田 伊津子 (43) ＜平成32年4月＞ 博士(学術)
		環境汚染物質分析学
兼任	講師	三田村 雅 (78) ＜平成32年4月＞ 工学士
		ワイン学
兼任	講師	向井 理恵 (41) ＜平成32年4月＞ 博士(農学)
		機能性食品学
兼任	講師	土井 裕司 (69) ＜平成31年4月＞ 農学博士
		食品化学 醸造食品素材学 食品衛生学
兼任	講師	榊原 啓之 (46) ＜平成32年4月＞ 博士(学術)
		食品生化学
兼任	講師	丸山 伸之 (51) ＜平成32年4月＞ 博士(農学)
		食品遺伝子工学
兼任	講師	上田 悦範 (79) ＜平成32年4月＞ 農学博士
		食品保蔵学
兼任	講師	畠中 知子 (56) ＜平成31年4月＞ 博士(学術)
		農産物加工学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		担当授業科目名
兼任	講師	河野 潤一 (67) ＜平成32年4月＞ 獣医学博士
		家畜の構造と病気 ※
兼任	講師	大澤 朗 (66) ＜平成32年4月＞ 農学博士
		家畜の構造と病気 ※
兼任	講師	盛野 元 (64) ＜平成30年4月＞ 農学士
		フィールド実習Ⅰ フィールド実習Ⅱ 食農コープ実習
兼任	講師	函城 悦司 (72) ＜平成30年4月＞ 獣医学博士
		フィールド実習Ⅰ フィールド実習Ⅱ 食農コープ実習
兼任	講師	吉田 健一 (57) ＜平成32年4月＞ 博士(農学)
		醸酵微生物学
兼任	講師	福田 伊津子 (44) ＜平成32年4月＞ 博士(学術)
		環境汚染物質分析学
兼任	講師	三田村 雅 (79) ＜平成32年4月＞ 工学士
		ワイン学
兼任	講師	向井 理恵 (42) ＜平成32年4月＞ 博士(農学)
		機能性食品学
兼任	講師	土井 裕司 (69) ＜平成31年4月＞ 農学博士
		食品化学 醸造食品素材学 食品衛生学
兼任	講師	榊原 啓之 (47) ＜平成32年4月＞ 博士(学術)
		食品生化学
兼任	講師	丸山 伸之 (52) ＜平成32年4月＞ 博士(農学)
		食品遺伝子工学
兼任	講師	上田 悦範 (80) ＜平成32年4月＞ 農学博士
		食品保蔵学
兼任	講師	畠中 知子 (57) ＜平成31年4月＞ 博士(学術)
		農産物加工学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		担当授業科目名
兼任	講師	河野 潤一 (68) ＜平成32年4月＞ 獣医学博士
		家畜の構造と病気 ※
兼任	講師	大澤 朗 (67) ＜平成32年4月＞ 農学博士
		家畜の構造と病気 ※
兼任	講師	盛野 元 (65) ＜平成30年4月＞ 農学士
		フィールド実習Ⅰ フィールド実習Ⅱ 食農コープ実習
兼任	講師	函城 悦司 (73) ＜平成30年4月＞ 獣医学博士
		フィールド実習Ⅰ フィールド実習Ⅱ 食農コープ実習
兼任	講師	吉田 健一 (58) ＜平成32年4月＞ 博士(農学)
		醸酵微生物学
兼任	講師	福田 伊津子 (45) ＜平成32年4月＞ 博士(学術)
		環境汚染物質分析学
兼任	講師	三田村 雅 (80) ＜平成32年4月＞ 工学士
		ワイン学
兼任	講師	今堀 義洋 (62) ＜令和2年4月＞
		食品保蔵学
兼任	講師	畠中 知子 (58) ＜平成31年4月＞ 博士(学術)
		農産物加工学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
兼任	講師	山之上 稔 (63) <平成32年4月> 農学博士
		食肉加工学
兼任	講師	森田 英利 (55) <平成31年4月> 学術博士
		乳製品加工学
兼任	講師	山口 道利 (46) <平成33年4月> 博士(農学)
		食品安全の経済学
兼任	講師	小野 雅之 (65) <平成32年4月> 農学博士
		食品マーケティング論
兼任	講師	栗栖 基 (58) <平成32年4月> 文学士
		日本の食文化 日本の食文化実習
兼任	講師	河村 能夫 (77) <平成33年4月> Ph. D. (Cornel University) (米国)
		食農コープ実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
兼任	講師	山之上 稔 (64) <平成32年4月> 農学博士
		食肉加工学
兼任	講師	森田 英利 (56) <平成31年4月> 学術博士
		乳製品加工学
兼任	講師	山口 道利 (47) <平成33年4月> 博士(農学)
		食品安全の経済学
兼任	講師	小野 雅之 (66) <平成32年4月> 農学博士
		食品マーケティング論
兼任	講師	栗栖 基 (59) <平成32年4月> 文学士
		日本の食文化 日本の食文化実習
兼任	講師	河村 能夫 (78) <平成33年4月> Ph. D. (Cornel University) (米国)
		食農コープ実習
兼任	講師	相野 公孝 (60) <平成30年4月> 農学博士
		フィールド実習 I フィールド実習 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
兼任	講師	山之上 稔 (65) <平成32年4月> 農学博士
		食肉加工学
兼任	講師	森田 英利 (57) <平成31年4月> 学術博士
		乳製品加工学
兼任	講師	山口 道利 (48) <平成33年4月> 博士(農学)
		食品安全の経済学
兼任	講師	小野 雅之 (67) <平成32年4月> 農学博士
		食品マーケティング論
兼任	講師	栗栖 基 (60) <平成32年4月> 文学士
		日本の食文化 日本の食文化実習
兼任	講師	河村 能夫 (79) <平成33年4月> Ph. D. (Cornel University) (米国)
		食農コープ実習
兼任	講師	森 俊郎 (61) <平成31年4月>
		水産物加工学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等
担当授業科目名		
兼任	講師	吉田 晋弥 (63) <令和2年4月>
		農産物加工学
兼任	講師	山之上 稔 (66) <平成32年4月> 農学博士
		食肉加工学
兼任	講師	本田 和久 (52) <平成32年4月>
		食肉加工学
兼任	講師	森田 英利 (58) <平成31年4月> 学術博士
		乳製品加工学
兼任	講師	山口 道利 (49) <平成33年4月> 博士(農学)
		食品安全の経済学
兼任	講師	小野 雅之 (68) <平成32年4月> 農学博士
		食品マーケティング論
兼任	講師	栗栖 基 (61) <平成32年4月> 文学士
		日本の食文化 日本の食文化実習
兼任	講師	河村 能夫 (80) <平成33年4月> Ph. D. (Cornel University) (米国)
		食農コープ実習
兼任	講師	森 俊郎 (62) <平成31年4月>
		水産物加工学

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)  
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。  
 ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。  
 その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**  
 ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。  
 ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。  
 ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(研)、兼任、兼任の順に記入してください。  
 ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・吉川貴徳准教授辞任により、桧原健一郎准教授、許冲助教に変更
- ・兼任講師の担当科目変更に伴い兼任講師、兼任講師の追加
- ・教育効果充実のため、担当者追加

【令和元年度】

- ・金沢和樹教授辞任により、土井裕司教授に変更
- ・届出時に記載の通り、今年度より林将也助教就任

【令和2年度】

- ・教育効果充実を目的とした専任教員の担当科目変更に伴う兼任講師の追加
- ・兼任講師就任辞退に伴う担当者変更

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
  - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
8	4
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十条別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
5	1	0	2	8	0	5	1	0	2	8	0
(5)	(1)	0	(1)	(7)	0						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
5	1	0	2	8	0	5	1	0	2	8	0
[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	3	3
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{8}{8} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{3}{8} = \boxed{37.5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1		該当なし								
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	金沢 和樹	H30.9	必修	醸造学概論	①	H30.9 体調不良ため辞任（元）			
				必修	基礎演習Ⅰ	①				
				必修	基礎演習Ⅱ	①				
				必修	基礎演習Ⅲ	①				
				必修	基礎演習Ⅳ	①				
				必修	食の安全学	①				
				必修	化学実験	①				
				必修	醸造学実習	①				
				必修	栄養化学	①				
				必修	食品機能分析化学	①				
				選択	食品加工化学	①				
				選択	食品管理化学	①				
				必修	醸造学演習Ⅰ	①				
				必修	醸造学演習Ⅱ	①				
				必修	醸造学演習Ⅲ	①				
必修	醸造学演習Ⅳ	①								
必修	卒業研究	①								
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
1	人	必修	15	科目	必修	15	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	2	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	17	科目	計	17	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
1	人	必修	15	科目	必修	15	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	2	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	17	科目	計	17	科目	計	0	科目



(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)\text{合計}(D)+(F)}{(2)-(2)\text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{8} = \boxed{12.5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
1		該当なし								
合計				後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任担当教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

平成30年9月体調不良により退職した教授1名の後任には、令和元年度より就任した教授が授業を担当しており、学生に対する研究指導体制に支障はないと考える。また、学生に対しては年度当初のオリエンテーション時に説明し周知している。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。



## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画
認可時 (平成29年)	<p>完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること</p>	<p>中心的な教育・研究分野について、経験豊かな教授と若手教員をあわせて採用し、後継の育成を図ることで継続的な教育・研究の質の保証に十分配慮した教員組織編制としている。なお、本学園における定年については、就業規則において「新たに学校・学部又は学科等を設置する場合は、その完成年度終了まで、関係職員の定年を延長することができる。」と定めておりこれに基づいて適切に運用している。</p> <p>昨年度、70歳代の教授1名の退職に伴い60歳代の教授1名、開設時から当初予定していた30歳代の助教1名を採用した。</p>	<p>将来も引き続き、主要な分野における高齢専任教員の退職にあたっては、同分野の優秀な若手専任教員を採用することを基本方針とし継続的な教育・研究の質の保証に努める計画である。</p>
	<p>吉備国際大学社会科学部経営社会学科、保健医療福祉学部社会福祉学科、心理学部心理学科、子ども発達教育学科（通信教育課程）、外国語学部外国学科、アニメーション文化学部アニメーション文化学科、心理学部子ども発達教育学科、九州保健福祉大学社会福祉学部臨床福祉学科、保健科学部言語聴覚療法学科、視機能療法学科、臨床工学科及び社会福祉学部臨床福祉学科（通信教育課程）の定員</p>	<p>入学定員の充足に向けて、従来から行っている進学説明会、高校訪問、出張講義、オープンキャンパスに加えて、学部・学科ごとのリーフレット作成、分野別ガイダンスへの積極的参加、学科ブログを活用した情報発信を行うことで、入学定員確保を目指して取り組んできた。このうち、吉備国際大学社会科学部経営社会学科では、昨年同様に科目等履修生、別科生として学んでいた留学生在が進学したことで、令和元年度の入学生は前年52名から69名となり、定員充足率は1.15倍で</p>	<p>社会科学部経営社会学科においては、科目等履修生、別科生として学んでいる留学生在にコンスタントに進学してもらえよう関係部署と連携するとともに、海外支局とも連携し秋学期入学者の受け入れも積極的に行い、今年度同様、入学定員確保に努める。</p> <p>心理学部心理学科についても、専門職である公認心理師に対応する教育課程の更なる充実を図り、PRしていくことで、今年度同様に入学定員の確保に努める。</p> <p>子ども発達教育学科（通信教育課程）については、</p>

充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。

改善された。  
保健医療福祉学部社会福祉学科は、近年定員未充足状態が続いていたため、昨年度より学生募集を停止している。

心理学部心理学科は、近年定員未充足が続いていたため、昨年度定員を50名から40名に減員した。新たな心理職である公認心理師に対応する教育課程の充実を図り、PR活動を行った結果入学者は昨年度47名、今年度は52名と定員充足となった。

子ども発達教育学科（通信教育課程）については、入学者の大半が社会人であるため、休日を利用した進学説明会を開催しているところであるが、今年度も入学者が19名（0.38倍）と厳しい結果となった。

外国語学部外国学科では、日本人としてのアイデンティティを養い、外国語能力を身につけ、日本の歴史や文化を世界に発信できるグローバル人材の養成という教育目標と、「ジャパンスタディ」、「生き方」、「スタディアブロード」といった特色ある教育内容をフェイスブックや学科ブログを活用して分かりやすく紹介してきた。また平成30年度より、入学定員を80名から50名に減員し学生募集に努めてきたところ、入学者は昨年53名、今年度66名と定員を充足した。

アニメーション文化学部  
アニメーション文化学科は開設以来、定員未充足の状

休日を利用した進学相談会の実施、福祉施設や保育園等へのPRを行うとともに、入学定員についての見直しも検討していく。

外国語学部外国学科については、留学必須を含む特色あるカリキュラム、航空業界に興味のある学生を対象にANAビジネスソリューション(株)と協定を結ぶなど、学科の特色を最大限にPRし、今年度同様に入学定員の確保に努める。

アニメーション文化学部  
アニメーション文化学科は引き続き、海外の提携校と連携し留学生確保に努めるとともに、昨年誕生した全国初となるVRキャラクター教員を使って3Dアニメ制作などの講義に関わったり、VチューバーとしてYou Yubeでの動画配信や大学の魅力発信を行う。

また、毎年開催しているゲームジャム高梁や高校生向けのイラストコンテストなどを様々な媒体を使って告知し、今年度同様に入学定員の確保に努める。

九州保健福祉大学社会福祉学部臨床福祉学科は、昨年入学定員を40名に減員して高校内での講義や、学校見学会などを強化してきたが、入学者は大幅に減少したため、今後の募集を含めた検討を行っていく。

保健科学部言語聴覚療法学科は、今年度より新設された臨床心理学部臨床心理学科の言語聴覚コースにおいて、引き続き言語聴覚士の養成を行っている。同様に

留意事項

態が続いていたが、依然海外を中心にアニメ人気は高いものがある。本学園と提携している大学を中心に積極的なPR活動や、高校生を対象としたイラストコンテストの開催などで学生募集に努めたところ、今年度は留学生20名を含む44名が入学し定員を充足した。

心理学部子ども発達教育学科の入学者数は、29年度15名、30年度17名、31年度12名、令和2年度11名で、定員充足率はそれぞれ、0.37倍、0.42倍、0.3倍、0.27倍と厳しい状態が続いている。

九州保健福祉大学社会福祉学部臨床福祉学科は、平成27年度に入学定員を145名か65名に減員したが、定員未充足状態が続いており、昨年度再び定員を40名に減員した。この結果、入学者及び入学定員充足率は、平成31年度28名（0.70倍）、今年度11名（0.27倍）となった。

保健科学部言語聴覚療法学科は昨年までの直近3年間の状況 29年度12名（0.30倍）、30年度22名（0.55倍）、31年度10名（0.25倍）を踏まえ今年度より学生募集を停止している。臨床工学科についても定員未充足が続いており、昨年度入学定員を40名に減員したが、入学者及び定員充足率は、14名（0.35倍）と振るわず、今年度から募集停止となった。なお、視機能療法学科は昨年度より募集停止となっている。

社会福祉学部臨床福祉学科

履行中

臨床工学科についても、生命医科学科内の臨床工学科士コースにおいて、引き続き臨床工学科士の養成を行うこととなった。

社会福祉学部臨床福祉学科（通信教育課程）については、引き続き主に社会人を対象とした募集活動を展開していく。地方での進学説明会の開催、メールでの個別対応、新聞広告や媒体を使ったPR活動を行い、一人でも多くの入学者確保に努める。併せて、入学定員の見直しについても検討していく。

			<p>(通信教育課程)は、学生のほとんどが社会人であるため、休日を利用した進学相談会の実施、ダイレクトメール、新聞広告などで告知しているが、昨年度までの入学定員は500名と多く、入学定員充足率は、平成29年度0.22倍、平成30年度0.17倍、平成31年度0.17倍と低い状態が続いていた。このため、今年度は入学定員を300名に減員とした。なお、今年度の入学者は5月1日時点で29名であるが、秋季募集も行っているため、最終的な入学者数は若干増える予定である。</p>	
	<p>吉備国際大学保健医療福祉学部理学療法学科の入学定員超過の是正に努めること。</p>	留意事項	<p>吉備国際大学保健医療福祉学部理学療法学科の今年度の入学者は42名であった。この結果、平成29年度から令和2年度までの入学定員超過率の平均は、0.96倍となり改善された。</p>	<p>今後も引き続き、入学定員超過率の適正な状況を維持するよう努めていく。</p>
<p>設置計画履行状況調査時 (平成30年)</p>	<p>入学定員未充足の改善に努めること。(外国語学部外国学科)</p>	指摘事項 (改善)	<p>外国語学部外国学科では、日本人としてのアイデンティティを養い、外国語能力を身につけ、日本の歴史や文化を世界に発信できるグローバル人材の養成という教育目標と、「ジャパンスタディ」、「生き方」、「スタディアブロード」といった特色ある教育内容をフェイスブックや学科ブログを活用して分かりやすく紹介してきた。また平成30年度より、入学定員を80名から50名に減員し学生募集に努めてきたところ、入学者は昨年53名、今年度66名と定員を充足した。</p>	<p>引き続き、学科の特色を全面的に打ち出した広報活動を行い、今年度同様に入学定員の確保に努める。</p>

<p>入学定員未充足の改善に努めること（アニメーション文化学部アニメーション文化学科）</p>	<p>指摘事項 (改善)</p>	<p>アニメーション文化学部 アニメーション文化学科は開設以来、定員未充足の状態が続いていたが、依然海外を中心にアニメ人気は高いものがある。本学園と提携している大学を中心に積極的なPR活動や、高校生を対象としたイラストコンテストの開催などで学生募集に努めたところ、今年度は留学生20名を含む44名が入学し定員を充足した。</p>	<p>履行済</p> <p>引き続き、海外の提携校と連携し留学生確保に努めるとともに、昨年誕生した全国初となるVRキャラクター教員を使って3Dアニメ制作などの講義に関わったり、VチューバーとしてYou Tubeでの動画配信や大学の魅力発信を行う。また、毎年開催しているゲームジャム高梁や高校生向けのイラストコンテストなどを様々な媒体を使って告知し、今年度同様に入学定員の確保に努める。</p>
<p>入学定員未充足の改善に努めること（農学部醸造学科）</p>	<p>指摘事項 (改善)</p>	<p>平成30年度の開設当初より進学説明会、高校訪問、出張講義、オープンキャンパスに加えて、学部・学科ごとのリーフレット作成、分野別ガイダンスへの積極的参加、学科ブログを活用した情報発信を行うことで、入学定員確保を目指してきたが、入学者及び入学定員充足率は、平成30年度20名（0.50倍）、平成31年度24名（0.60倍）、令和2年度23名（0.57倍）と未充足の状態が続いている。</p>	<p>履行中</p> <p>醸造学科は、全国的に競合校も殆どなく希少な学科である。3年目を迎え認知度も徐々に上がってきていることから、引き続きマーケットを全国区に設定し、CMや媒体を使って露出を増やしていく。また、高校生向けの出張講義や、進学ガイダンス等に積極的に参加するなどして学生確保に努めていく。</p>
<p>定年規程に定める退職年齢を超える専任教員の割合が高いことから定年規程の趣旨を踏まえつつ適切な教員組織の編制に努めること。 (農学部醸造学科)</p>	<p>指摘事項 (改善)</p>	<p>中心的な教育・研究分野について、経験豊かな教授と若手教員をあわせて採用し、後継の育成を図ることで継続的な教育・研究の質の保証に十分配慮した教員組織編制としている。なお、本学園における定年については、就業規則において「新たに学校・学部又は学科等を設置する場合は、その完成年度終了まで、関係職員の定年を延長すること</p>	<p>履行中</p> <p>将来も引き続き、主要な分野における高齢専任教員の退職にあたっては、同分野の優秀な若手専任教員を採用することを基本方針とし継続的な教育・研究の質の保証に努める計画である。</p>

	<p>ができる。」と定めておりこれに基づいて適切に運用している。</p> <p>昨年度、70歳代の教授1名の退職に伴い60歳代の教授1名、開設時から当初予定していた30歳代の助教1名を採用した。</p>	
<p>定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえつつ適切な教員組織の編制に努めること。（地域創成農学研究科地域創成農学専攻（M））</p>	<p>地域創成農学研究科地域創成農学専攻の開設時の専任教員は、70歳代3名、60歳代2名、50歳代1名、40歳代2名30歳代2名の構成でスタートした。カリキュラム上、十分な研究業績と豊かな教育経験をもつ教員を配置したため、60歳以上の年齢構成比が高くなっている。しかし、中心的な教育・研究分野ごとに、その専門分野の若手教員を配置することによって、継続的な教育・研究の質の保証に十分配慮している。一方、本学園の定年に関する規定においては、教授、准教授、講師の定年は65歳、助教・助手の定年は60歳と定められており、定年の延長となる教員が5名となるが、これは、「新たに学校・学部又は学科等を設置する場合は、その完成年度終了まで、関係職員の定年を延長することができる。」との規定を根拠としている。このことを踏まえ、前述のとおり、中心的な教育・研究分野に若手教員を配置することによって、後継の人材育成を行い、継続的な教育研究を維持できる体制としている。今年は70歳代教授1名と60歳代教授2名の退職に伴い、また、本研究科は、将来農業全般に</p>	<p>将来も引き続き、主要な分野における高齢専任教員の退職にあたっては、同分野の優秀な若手専任教員を採用することを基本方針とし継続的な教育・研究の質の保証に努める計画である。</p>

指摘事項  
(改善)

履行中



			渡って精通した高度な専門研究者の育成を目的とする「博士課程」への進学も視野に、昨年度若手教員採用計画に基づき、60歳代の教授2名と40歳代の准教授2名を採用し、開設時の年齢構成と比較し、高齢専任教員へのウエイトが高くないように努めている。	
設置計画履行状況調査時 (令和元年)	入学定員未充足の改善に努めること。 (農学部醸造学科)	指摘事項 (改善)	平成30年度の開設当初より進学説明会、高校訪問、出張講義、オープンキャンパスに加えて、学部・学科ごとのリーフレット作成、分野別ガイダンスへの積極的参加、学科ブログを活用した情報発信を行うことで、入学定員確保を目指してきたが、入学者及び入学定員充足率は、平成30年度20名(0.50倍)、平成31年度24名(0.60倍)、令和2年度23名(0.57倍)と未充足の状態が続いている。	履行中
				醸造学科は、全国的に競合校も殆どなく希少な学科である。3年目を迎え認知度も徐々に上がってきていることから、引き続きマーケットを全国区に設定し、CMや媒体を使って露出を増やしていく。また、高校生向けの出張講義や、進学ガイダンス等に積極的に参加するなどして学生確保に努めていく。

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。



## 7 その他全般的事項

### <農学部 醸造学科>

#### (1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>⑥教育方法、履修指導方法及び卒業要件 (2)履修指導方法</p> <p>毎年度、各学期開始時に学年別・学科別オリエンテーションを開催し、学生に学生便覧、シラバス、時間割、カリキュラム、履修モデル等の資料を示し、卒業要件・資格取得に必要な科目、履修方法などについて具体的な説明と個別指導を行う。また、全体のオリエンテーションに加えて、随時、事務窓口での職員による個別指導やチューター（演習担当教員）による個別の指導・助言やラーニングサポートセンターでの学修相談などを行い、学生の適性や希望する進路に沿った適切な履修ができるよう支援する。</p>	<p>令和2年度の授業は、新型コロナウイルスの感染リスクから学生並びにスタッフの安全を確保するため5月初旬よりwebを使用した遠隔授業で実施する。教育の質を低下させないよう4月初旬よりキャンパス内で授業内容についての議論を経て、中旬より在学生と専任教員との接続テストを繰り返し行った。さらに非常勤講師と事務室担当者での遠隔授業に関する打ち合わせを行い、トラブルなく運用できるよう進めている。</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吉備国際大学教育開発・研究推進中核センター</li> <li>*吉備国際大学教育開発・研究推進中核センター規程を別添添付。</li> </ul> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育開発・研究推進中核センターは、定例会を毎月1回実施しており、令和元年度については、12回の開催であった。</li> </ul> <table border="0"> <tr> <td>第1回 平成31年 4月 4日（構成員 9名中 9名出席）</td> <td>第8回 令和元年11月 6日（構成員 9名中 9名出席）</td> </tr> <tr> <td>第2回 令和元年 5月15日（構成員 9名中 8名出席）</td> <td>第9回 令和元年12月 4日（構成員 9名中 7名出席）</td> </tr> <tr> <td>第3回 令和元年 6月 5日（構成員 9名中 9名出席）</td> <td>第10回 令和 2年 1月 8日（構成員 9名中 9名出席）</td> </tr> <tr> <td>第4回 令和元年 7月 3日（構成員 9名中 9名出席）</td> <td>第11回 令和 2年 2月 5日（構成員 9名中 8名出席）</td> </tr> <tr> <td>第5回 令和元年 8月 7日（構成員 9名中 6名出席）</td> <td>第12回 令和 2年 3月 4日（構成員 9名中 9名出席）</td> </tr> <tr> <td>第6回 令和元年 9月 4日（構成員 9名中 8名出席）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回 令和元年10月 3日（構成員 9名中 8名出席）</td> <td></td> </tr> </table> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FD研修会の開催について</li> </ul>	第1回 平成31年 4月 4日（構成員 9名中 9名出席）	第8回 令和元年11月 6日（構成員 9名中 9名出席）	第2回 令和元年 5月15日（構成員 9名中 8名出席）	第9回 令和元年12月 4日（構成員 9名中 7名出席）	第3回 令和元年 6月 5日（構成員 9名中 9名出席）	第10回 令和 2年 1月 8日（構成員 9名中 9名出席）	第4回 令和元年 7月 3日（構成員 9名中 9名出席）	第11回 令和 2年 2月 5日（構成員 9名中 8名出席）	第5回 令和元年 8月 7日（構成員 9名中 6名出席）	第12回 令和 2年 3月 4日（構成員 9名中 9名出席）	第6回 令和元年 9月 4日（構成員 9名中 8名出席）		第7回 令和元年10月 3日（構成員 9名中 8名出席）		
第1回 平成31年 4月 4日（構成員 9名中 9名出席）	第8回 令和元年11月 6日（構成員 9名中 9名出席）														
第2回 令和元年 5月15日（構成員 9名中 8名出席）	第9回 令和元年12月 4日（構成員 9名中 7名出席）														
第3回 令和元年 6月 5日（構成員 9名中 9名出席）	第10回 令和 2年 1月 8日（構成員 9名中 9名出席）														
第4回 令和元年 7月 3日（構成員 9名中 9名出席）	第11回 令和 2年 2月 5日（構成員 9名中 8名出席）														
第5回 令和元年 8月 7日（構成員 9名中 6名出席）	第12回 令和 2年 3月 4日（構成員 9名中 9名出席）														
第6回 令和元年 9月 4日（構成員 9名中 8名出席）															
第7回 令和元年10月 3日（構成員 9名中 8名出席）															
<p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FDSD研修会（大学院を含む）</li> </ul> <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師・学内教員による研修</li> </ul>															

- c 開催状況（教員の参加状況含む）
- ・平成31年度第1回FD・SD研修会（平成31年4月27日（土）開催 115名参加）  
「インストラクショナル・デザイン入門～学習意欲を高める授業設計～」  
仲道 雅輝（愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 講師）
  - ・令和元年度第2回FD・SD研修会（令和元年8月2日（金）開催 107名参加）  
「学修成果の可視化とは～その目的と方法を考える～」  
西野 毅朗（京都橘大学 現代ビジネス学部経営学科 教育開発支援センター 講師）
  - ・令和元年度第3回（臨時）FD・SD研修会（令和2年1月23日（木）開催 22名参加）  
「『大学の国際化による地方活性化促進』公開ワークショップをネットでみませんか！」  
日本学術会議 若手アカデミー公開ワークショップ ネット配信
  - ・公的研究費コンプライアンス研修 教育・研究倫理教育研修（平成31年4月27日（土）開催 113名参加）  
河村 顕治（研究担当副学長 研究推進部門長）
- d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
- 第1回FD研修会では、教育活動の効率と魅力を高めるための手法を集大成したモデルや研究分野、またはその応用で学習支援環境を実現するプロセスであるインストラクショナル・デザインについて学ぶことで、学習者、学習内容にとって、学習環境の中で、どのような方法で教えるのが効果的、効率的、魅力的かをデザイン（設計）することで「効果的な授業」に繋げる。第2回FD研修会では、学修成果の可視化についての概要と意義を学び、『学生が変容する授業』をめざして目標、評価、方法を更に修正していけるよう教職員の質的向上を図り、本学の教育目標達成に努めていく。第3回FD研修会では、日本学術会議若手アカデミー「大学の国際化による地方活性化促進」公開ワークショップのネット配信を視聴し、別府市と立命館アジア太平洋大学の先進的な取り組みを例に、地域住民、関係者や研究者との対話により、国際化の進まない大学に足りないもの、大学内で整えるべき体制、今後他の地域にも応用したい地方活性につながる大学の国際化の在り方について考える。
- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
- a 実施の有無及び実施時期  
全教員対象に春・秋学期に実施
- b 教員や学生への公開状況、方法等  
HPに掲載

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項  
※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

- ① 体制
- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）  
「該当なし」
- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）  
「該当なし」
- c 委員会の審議事項等  
「該当なし」
- d その他  
「該当なし」
- ② 審議状況
- a 審議した内容  
「該当なし」
- b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況  
「該当なし」
- c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況  
「該当なし」

#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

##### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学科は3年目を迎え、昨年の入学者、今年の入学者共に醸造・発酵学に関する学修意欲は高く、順調に経過している。本学部は、平成25年4月のキャンパス開設以来、立地する兵庫県南あわじ市並びに地元地域の各団体・企業等との各種研究開発を順次進めてきた経緯があり、この成果を踏まえ平成29年度私立大学等研究ブランディング事業に選定された。現在、本学科においても、事業の課題研究に関して学生と共に取り組んでおり、灘を始めとする醸造メーカーとの学生のインターンシップに関する協定を締結している。さらに希望する数人の学生に、1年次の基礎演習で醸造の実際を講義している。本学科の目指す「日本食を支えてきた醸造に関する確かな知識と技術を身につけ、醸造関連分野で活躍でき人材の育成」について着実に進展している。

##### ② 自己点検・評価報告書

###### a 公表（予定）時期

- ・ 1回目 平成 9年 3月 公表
- ・ 2回目 平成 16年 3月 公表
- ・ 3回目 平成 23年 9月 公表
- ・ 4回目 平成 28年 3月 公表
- ・ 5回目 令和 2年 3月 公表

###### b 公表方法

- ・ 自己点検・評価報告書をHPに掲載

##### ③ 認証評価を受ける計画

- ・ 令和4年に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (5) 情報公表に関する事項

##### ○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [  有 ・  無 ]

≪ a で「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・  公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [  ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ( ) ]

≪ a で公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。